Ultra ATA対応 内蔵IDE HDドライブ

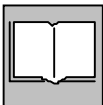
UHDI-GHシリーズ

取扱説明書

株式会社アイ・オー・データ機器

33043-08

【ご注意】

1) 本製品及び本書は株式会社アイ・オー・データ機器の著作物です。
したがって、本製品及び本書の一部または全部を無断で複製、複写、転載、改変することは法律で禁じられています。
2) 本製品及び本書の内容については、改良のために予告なく変更することがあります。
3) 本製品及び本書の内容について、不審な点やお気づきの点がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。
4) 本製品は「外国為替及び外国貿易法」の規定により戦略物資等輸出規制製品に該当する場合があります。
国外に持ち出す際には、日本国政府の輸出許可申請などの手続きが必要になる場合があります。
5) 本製品は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など人命に関る設備や機器、及び高度な信頼性を必要とする設備や機器としての使用またはこれらに組み込んでの使用は意図されておりません。これら、設備や機器、制御システムなどに本製品を使用され、本製品の故障により、人身事故、火災事故、社会的な損害などが生じても、弊社ではいかなる責任も負いかねます。設備や機器、制御システムなどにおいて、冗長設計、火災延焼対策設計、誤動作防止設計など、安全設計に万全を期されるようご注意願います。
6) 本製品は日本国内仕様です。本製品を日本国外で使用された場合、弊社は一切の責任を負いかねます。また、弊社は本製品に関し、日本国外への技術サポート、及びアフターサービス等を行っておりませんので、予めご了承ください。(This product is for use only in Japan. We bear no responsibility for any damages or losses arising from use of, or inability to use, this product outside Japan and provide no technical support or after-service for this product outside Japan.)
7) お客様は、本製品または、その使用権を第三者に対する再使用許諾、譲渡、移転またはその他の処分を行うことはできません。
8) 弊社は、お客様が【ご注意】の諸条件のいずれかに違反されたときは、いつでも本製品のご使用を終了させることができるものとします。
9) 本製品を運用した結果の他への影響については、上記にかかわらず責任は負いかねますのでご了承ください。

お読みになる前に

このたびは、本製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
お使いの前に本書をよくお読みいただき、正しいお取り扱いをお願いします。

● 呼び方

呼び方	意　味
UHDI-GHシリーズ	別紙をご覧ください。
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System
Windows 98	Microsoft® Windows® 98 Operating SystemおよびMicrosoft® Windows® 98 Second Edition Operating Systemの総称
Windows 95	Microsoft® Windows® 95 Operating System
Windows Me/98/95	Windows Me,Windows 98およびWindows 95の総称
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation Version 4.0 Operating System
Windows Me/98/95/NT 4.0	Windows 98,Windows 95およびWindows NT 4.0の総称
Windows NT 3.51	Microsoft® Windows NT® Workstation Version 3.51 Operating System
Windows NT	Windows NT 4.0およびWindows NT 3.51の総称
Windows 3.1	Microsoft® Windows® Version 3.1 Operating System
Windows	Windows Me/98/95,Windows 2000,Windows NTおよびWindows 3.1の総称
Ultra ATA対応機種	Ultra ATA対応のEnhanced IDEインターフェイスを搭載した機種
ファイルベイ	5インチベイをファイルベイとも呼びます。

● 本書の読み進め方

以下の流れに沿って、必要なところをお読みください。

もくじ

増設用ハードディスクとして使う………43

付 録 ………………………75

はじめに

特徴	本製品の特徴を紹介します。(2ページ)
▼	
箱の中には	箱の中のものを確認します。(3ページ)
▼	
動作環境	本製品を使うことができるパソコン環境を説明します。(5ページ)
▼	
ユーザー登録しよう	ユーザー登録をしてください。(8ページ)
▼	
本製品の性能を発揮するには	対応している転送方式について説明します。(10ページ)
▼	
取り扱いおよび使用上の注意	本製品を使うにあたって注意しなければならないことを説明します。(12ページ)

特徴

●高速転送

Ultra DMAなどの高速転送方式が利用可能です。

●大容量でハイコストパフォーマンス

Windowsアプリケーションや画像・音声データなど大容量を必要とする場合でも、十分対応可能です。1Mバイトあたりの単価でも優れたコストパフォーマンスを達成しました。

●起動用ドライブとして入れ替えが可能

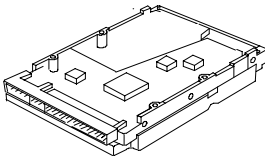
ビー・エイチ・エー社製 B'sCrew for Windowsを使うことにより、使用中の起動用ドライブと入れ替えることが可能です。
操作も画面を見ながらの簡単操作で行うことができます。

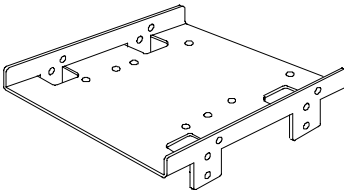
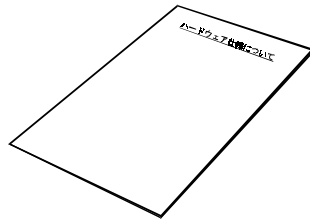
※ **本製品を起動用ドライブと入れ替える場合は、元の内蔵IDEハードディスクより優先度を高く設定する必要があります。**
本製品をUIDE-66,UIDE-DVシリーズに接続する場合は、元の内蔵ハードディスクをUIDE-66,UIDE-DVシリーズに接続し、本製品より優先度の低い設定にしてください。
優先度についての詳細は、【1　本製品を設定する】(21ページ)をご覧ください。

箱の中には

箱の中には以下のものが入っています。
□にチェックをつけながら、ご確認ください。
万が一不足品がございましたら、弊社サポートセンターまでご連絡ください。

> **箱・梱包材は**
> 　大切に保管し、修理などで輸送の際にお使いください。
>
> **イラストについて**
> 　実物と若干異なる場合があります。

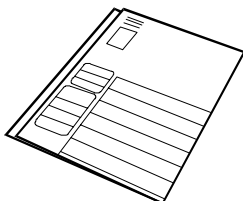
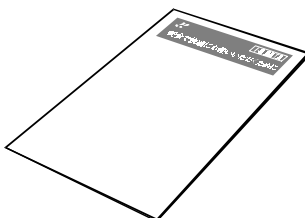
□ **ハードディスク**
［UHDI-GHシリーズ］

☑ **UHDI-GHシリーズ取扱説明書**
（本書）

□ **5インチベイ用取り付け金具**

□ **『ハードウェア仕様について』**

□ **本体装着用ネジA（４個）**

□ **金具取り付けネジ（４個）**

□ **ハードウェア保証書**

□ **ハードウェアシリアルNo.シール**

□ **ユーザー登録カード**

□ **『安全で快適にお使いいただくために』**

□ **B'sCrew for Windows一式**

［・フロッピーディスク
・ビー・エイチ・エー社製ユーザー登録ハガキ
・B'sCrew for Windowsユーザーズマニュアル
・B'sCrew for Windows専用シリアルNO.シール］

□ **B'sCrew for Windows ユーザーズマニュアル補足情報**

B'sCrew for Windowsに関しては、ビー・エイチ・エー社にお問い合わせください。（105ページ）

動作環境

対応機種

マシン	PC98-NXシリーズおよびDOS/Vマシン
インターフェイス	パソコン※1またはインターフェイスボード※1が本製品の容量に対応していること。
空きベイ	パソコンに内部増設が可能な空きベイ※2があること。

※1 対応している容量については、各メーカーにお問い合わせください。
　また、Ultra ATA/100/66/33対応インターフェイスをおすすめします。
※2 内部増設が可能かどうかについては、パソコンの取扱説明書をご覧になるか、パソコンメーカーにお問い合わせください。

弊社製 Ultra ATAインターフェイスボードについて

- **「UIDE-66」ではUltra DMA/66転送方式まで利用できます。**
- **「UIDE-DVM」ではUltra DMA/33転送方式まで利用できます。**
  また、32Gバイトまでのハードディスクに対応しています。
- **「UIDE-DV」ではUltra DMA/33転送方式まで利用できます。**
  また、32Gバイトまでのハードディスクに対応しています。
  ただし、BIOSのアップデートが必要です。

「UIDE-DV」のBIOSアップデート

BIOSのアップデート方法はこちらをご覧ください。

http://www.iodata.co.jp/lib/ifoption/uidedv.htm

対応ＯＳ

●PC98-NXシリーズ

	本製品の容量（バイト）				
	～12G	13G～39G	40G～59G	60G～79G	80G～
Windows Me※1	○	○	○	○	○
Windows 98	○	○	○	○	○※2
Windows 95	○	○	○※4	×	×
Windows 2000	○	○	○	○	○
Windows NT 4.0	○	○※5	○※5	○※5	○※5

●DOS/Vマシン

弊社では、OADG加盟メーカーの機種で動作確認を行っています。

	本製品の容量（バイト）				
	～12G	13G～39G	40G～59G	60G～79G	80G～
Windows Me※1	○	○	○	○	○
Windows 98	○	○	○	○	○※2
Windows 95※3	○	○	○※4	×	×
Windows 2000	○	○	○	○	○
Windows NT 4.0	○	○※5	○※5	○※5	○※5
Windows NT 3.51	○	×	×	×	×
Windows 3.1※6	○※7	○※7	×	×	×
MS-DOS（PC DOS）※6	○※7	○※7	×	×	×

※1 フロッピーディスクドライブが必要です。

※2 FDISKのアップデートが必要です。詳しくは、次ページをご覧ください。

※3 Windows 95のモジュールをアップデートしてください。
詳しくは、次ページの【DOS/VマシンのWindows 95で本製品をお使いになる場合の注意事項】をご覧ください。

※4 Windows 95/バージョン番号が4.00.950 B/4.00.950 Cであること。

※5 Service Pack 4以降が必要です。判別方法については、次ページをご覧ください。

※6 MS-DOS Ver.6.2/V（PC DOS J6.1/V）以降であること。

※7 約8.4Gバイトを超える容量を使うことはできません。

《FDISKのアップデート方法》

Windows 98で80Gバイト以上の本製品を使う場合は、FDISKのアップデートが必要です。

・アップデート方法

このホームページをご覧になり、FDISKのアップデートをしてください。

http://www.microsoft.com/japan/support/kb/articles/jp263/0/44.htm

《Service Packの判別方法と入手》

1. ［マイコンピュータ］の［ヘルプ］をクリックし、メニュー内の［バージョン表示］をクリックしてください。
2. 表示される｢Service Pack x｣のxを確認してください。
   それがService Packのバージョンです。｢Service Pack x｣が表示されない場合は、Service Packがインストールされていません。
   Service Packは、以下のMicrosoft社のホームページ等から入手してください。

http://www.microsoft.com/japan/

《DOS/VマシンのWindows 95で本製品をお使いになる場合の注意事項》

Windows 95バージョン番号の確認方法
【Windows 95バージョン番号の確認方法】(49ページ)をご覧ください。

Windows 95のバージョンが4.00.950/4.00.950aでは、Windows 95の仕様によりビデオCDが再生できなくなるなどの問題が発生します。
Windows 95のモジュールをアップデートしてください。

・アップデート方法

Windows 95のモジュール(インターネットのMicrosoft社のホームページにあります)をアップデートすると、問題は解消されます。

http://www.microsoft.com/japan/win95/modules/pcat.htm

このホームページにあるモジュールの中の『IOS.VXDのアップデート』をダウンロードしてください。

ユーザー登録しよう

ここではユーザー登録について説明します。

本製品のユーザー登録について

1 「ハードウェアシリアルNo.シール」を所定の位置にはります。

添付のハードウェアシリアルNo.シールを、ユーザー登録カード、ハードウェア保証書にはってください。

2 ユーザー登録をします。

ユーザー登録にはオンライン登録と、ハガキ登録の2通りがあります。

●オンライン登録

http://www.iodata.co.jp/regist/

インターネットに接続できる環境をお持ちの場合はこちらでユーザー登録してください。
I-O DATA ホームページにユーザー登録フォームが用意されています。
画面の表示にしたがって必要事項を記入してください。
ユーザー登録後、お手元のユーザー登録カードにユーザー登録番号を記入し、大切に保管してください。

●ハガキ登録

必要な事項をご記入のうえ、弊社までユーザー登録カードをご返送ください。

必要事項のご記入もれや必要なシールのはり忘れがあった場合は、ユーザー登録できません。必ずご確認ください。

B'sCrew for Windowsのユーザー登録について

添付の「B' sCrew for Windows用ユーザー登録カード」にてユーザー登録を行ってください。

B'sCrew for Windowsに関する
お問い合わせ

B'sCrew for Windowsに関しては、
ビー・エイチ・エー社までお問い合わせください。

●お問い合わせ先
株式会社ビー･エイチ･エー　サポートセンター

TEL　06-4861-8234
FAX　06-6378-3336

受付時間：月～金曜日　10:00～17:00
（夏期･年末年始特定休業日、祝祭日を除く）

本製品の性能を発揮するには

本製品は以下の転送方式に対応しています。

		転送方式				
		Ultra DMA/100	Ultra DMA/66	Ultra DMA/33	DMA	PIO
条件	本製品の容量	60Gバイト以上	15Gバイト以上	―	―	―
	マシン環境	パソコンもしくはインターフェイスが転送方式に対応していること			―	―
	OS	Windows Me※1/98※1/95※1, Windows 2000※2, Windows NT 4.0※3			―	―
	ドライバ※4	転送方式に対応していること			―	―
	IDEケーブル※5	転送方式に対応していること		―	―	―

※1 システム環境が32ビットであること。
確認方法は、次ページの【●32ビット システム環境の確認】をご覧ください。

※2 Ultra DMA/100転送を使う場合、Service Pack 2以上が必要です。
判別方法については、【Service Packの判別方法と入手】(7ページ)をご覧ください。

※3 Ultra DMA/100/66は、Service Pack 4以降であること。

※4 ドライバの入手方法およびインストール方法については、パソコンもしくはインターフェイスのメーカーにお問い合わせください。

※5 お手持ちのケーブルが転送方式に対応していない場合は、別途弊社製オプションケーブル「FL-140H」「FL-140H-L」「FL-140H-L2」などをご利用ください。
詳しくは、【オプション品について】(103ページ)をご覧ください。

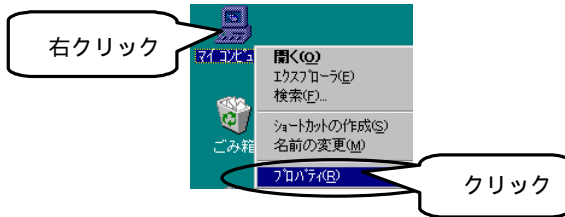
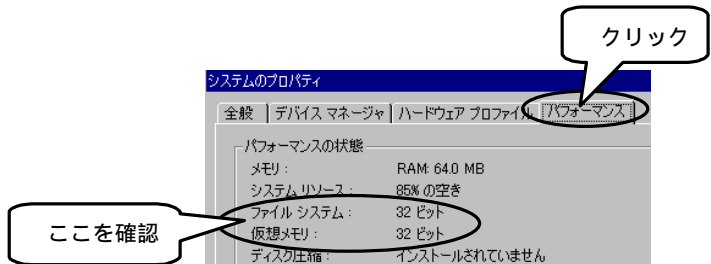
転送方式と最大転送速度(理論値)

Ultra DMA/100‥‥ 100Mバイト/Sec
Ultra DMA/66‥‥‥ 66.6Mバイト/Sec
Ultra DMA/33‥‥‥ 33.3Mバイト/Sec
DMA ‥‥‥‥‥‥‥ 16.6Mバイト/Sec
PIO ‥‥‥‥‥‥‥ 16.6Mバイト/Sec

●32ビット システム環境の確認(Windows Me/98/95のみ)

Windows Me/98/95の場合は、システム環境が32ビットである必要があります。（本製品を取り付ける前にご確認ください。）

《確認方法》

ステップ①：［マイコンピュータ］を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックします。

ステップ②：「パフォーマンス」タブをクリックし、「ファイルシステム」および「仮想メモリ」が「32ビット」になっていることを確認します。

32ビットになっていない場合は、パソコンメーカーにご確認ください。

取り扱いおよび使用上の注意

別冊『安全で快適にお使いいただくために』も併せてご覧ください。

● ハードディスクは消耗品です

故障した場合に備えて定期的にバックアップを取ることをおすすめします。なお、消失したデータなどの保証は、一切いたしかねますので、ご了承ください。

● 使う際の注意

●取り付け作業を行う際は、必ずパソコンおよび周辺機器の電源を切り、ACコンセントを抜いてから行ってください。
感電の原因となります。

●使った直後のパソコン内部およびハードディスクは、かなりの高温となっております。
電源を切った後、30分以上経過してから取り付け作業を行うことをおすすめします。

●本製品の基板部分には絶対に触れないでください。

●パソコン内部の部品やハードディスク取り付け用金具等は、とがっていたり、手を切りやすくなっている場合があります。けがをしないように注意して、取り付け作業を行ってください。

●パソコンの内部はパソコンの電子回路や各種ケーブル類がむき出しになっています。間違った接続をすると、故障したり正常に動作しなくなる可能性があります。本書をよく読んだ上で、正確に作業を行ってください。

●本製品やパソコン内部の部品は静電気に対して大変敏感です。
衣類や人体にたまった静電気に触れると破壊されることがありますのでご注意ください。取り付け・取り外しの前には、金属製のものに触れるなどして静電気を放電してください。

●パソコン内部にネジを落とさないでください。落ちたときは、内部の電子回路に触れないように取り除いてください。

●取り扱い上の注意

以下の事項を守らないと火災・感電・動作不良の原因になります。

●濡れた手などで本製品を取り扱わないでください。

●本製品を寒い所から暖かい場所へ移動したり、部屋の温度が急に上昇すると、本体内部が結露する場合があります。そのまま使うと誤動作や故障の原因となる場合があります。時間をおいて、結露がなくなってから使ってください。

●本体についた汚れなどを落とす場合は、柔らかい布で乾拭きしてください。
汚れを落とす場合は、ベンジン、アルコール、シンナー系の溶剤を含んでいるものは使わないでください。

● コネクタ部分に金属などの異物を差し込まないでください。

●本製品の修理は弊社修理係に ご依頼ください。

【修理について】(107ページ)参照。

なお、修理に出した場合、ハードディスクの内容は消去されますのでご了承ください。

取り付けよう

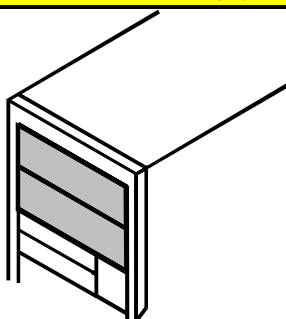
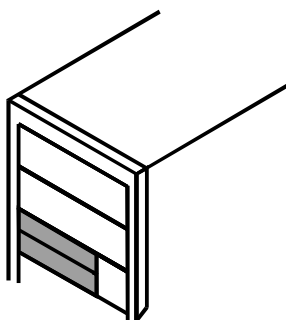
手順	内容
取り付け金具を確認しよう	本製品を取り付ける際に、別売りの金具が必要かどうかを確認します。（16ページ）
▼	
本製品を取り付ける前の基礎知識	IDE機器に関する説明をします。（19ページ）
▼	
本製品および内蔵ハードディスクの設定	本製品を取り付ける前に行う設定について説明します。（21ページ）
▼	
PC98-NXシリーズに取り付ける	PC98-NXシリーズに本製品を取り付ける方法を説明します。（26ページ）
▼	
DOS/Vマシンに取り付ける	DOS/Vマシンに本製品を取り付ける方法を説明します。（29ページ）
▼	
取り付け後に設定すること	本製品を取り付けた後に行う設定について説明します。（32ページ）

取り付け金具を確認しよう

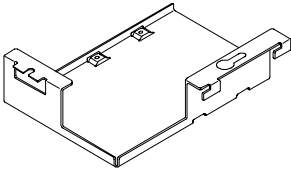
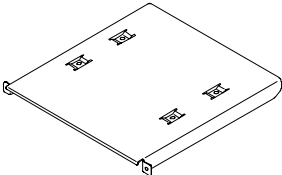
本製品に添付の取り付け金具は、ファイルベイ（5インチベイ）用です。

PC98-NXシリーズをお使いの場合は、取り付ける位置によって別売オプション金具が必要になる場合があります。
次ページ以降で取り付け場所および取り付け金具を確認後、必要な場合は別売オプションをご購入ください。

《取り付け場所について》（例：タワー型パソコンの場合）

● **5インチベイ（ファイルベイ）とは**
CD-ROMドライブと同じ大きさの内蔵ドライブを取り付けられる場所のことです。

● **3.5インチベイとは**
フロッピーディスクドライブと同じ大きさの内蔵ドライブを取り付けられる場所のことです。

※上記の取り付け場所は、一般的なパソコンの例です。
パソコンによっては別の場所に５インチベイや3.5インチベイがあることもあります。
どこにいくつ取り付け場所があるかなどの詳細については、パソコンの取扱説明書をご覧ください。

● PC98-NXシリーズでお使いになる場合

取り付ける場所により使う金具が異なります。詳しくは下記を参照してください。下記以外の機種については弊社カタログ巻末の対応表でご確認ください。

<table>
<tr><th>PC98-NXシリ--ズ対応機種</th><th>取り付け場所</th><th>使う金具</th></tr>
<tr><td>MA16C/SZ, MA20C/SZ, MA23C/SZ, MA23D/SZ, MA26D/SZ,
MA30D/SZ, MA35D/SZ,

VS16C/S5, VS20C(/S5,/S7), VS23D(/S5,/S7),
VS26D(/S5,/S7,/SZ),
VS30(/35C,/35D,/37C,/37D,/45C,/45D,/47C,/47D),
VS35(/37A,/47A)</td><td>3.5インチベイ</td><td>HDK-NXS※1</td></tr>
<tr><td rowspan="2">MA23D/MZ, MA30D/MZ, MA30E/MZ, MA33D/MZ, MA40D/MZ,
MA45J/MZ, MA50J/MZ, MA55J/MZ, MA60J/MZ, MA66T/MZ,
MA86T/MZ,

VM30(/37C,/37D,/3XC,/3XD,/47C,/47D,/4XC,/4XD),
VM30G(/47C,/47D),
VM35(/3XC,/3XD,/3ZC,/3ZD,/4XC,/4XD,/4ZC,/4ZD),
VM40(/3FC,/3FD,/4FC,/4FD),
VM550J(/77C,/77D,/7GC,/7GD,/7ZC,/7ZD,/87D,/8GD,
/8ZD),

VS26D(/MZ,/M7), VS30D/M7, VS30D/MZ, VS33D/M7</td><td>3.5インチベイ</td><td>HDK-NXM※1</td></tr>
<tr><td>5インチベイ</td><td>添付の金具※2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">MA35D/MZ, MA45D(/HZ,/MZ), MA50J/HZ(model BNBD3),

VM40D(/57C,/57D), VM45D(/5GC,/5GD,/5ZC,/5ZD),
VM45J(/6GC,/6GD,/6ZC,/6ZD)</td><td>3.5インチベイ</td><td>使わない※3</td></tr>
<tr><td>5インチベイ</td><td>添付の金具※3</td></tr>
</table>

※1 別売オプション品です。詳細については、次ページを参照してください。
※2 別途オプションケーブル（弊社製「FL-I40H」など）が必要です。
※3 別途オプションケーブル（弊社製「FL-I40H-L」など）が必要です。

《 PC98-NXシリーズ用 別売オプション》

別売オプション型番	内容物の詳細
HDK-NXS （デスクトップ用）	・取り付け金具・・・・・・ 1個 ・本体装着用ネジ…………………………… 4個 ・IDEフラットケーブル※4……………………1本
HDK-NXM （ミニタワー用）	・取り付け金具・・・・・・ 1個 ・本体装着用ネジ…………………………… 4個 ・IDEフラットケーブル※4……………………1本

※4 Ultra ATA/100/66には対応しておりません。
Ultra ATA/100/66対応のオプションケーブルについては【オプション品について】(103ページ)をご覧ください。

● DOS/Vマシンでお使いになる場合

3.5インチベイに取り付ける場合

添付の「5インチベイ用取り付け金具」は使いません。
（取り付けネジは使います。）
「5インチベイ用取り付け金具」は大切に保管しておいてください。

5インチベイ（ファイルベイ）に取り付ける場合

添付の「5インチベイ用取り付け金具」で取り付けます。

本製品を取り付ける前の基礎知識

1　パソコンに取り付けるIDE機器（Enhanced IDE仕様）

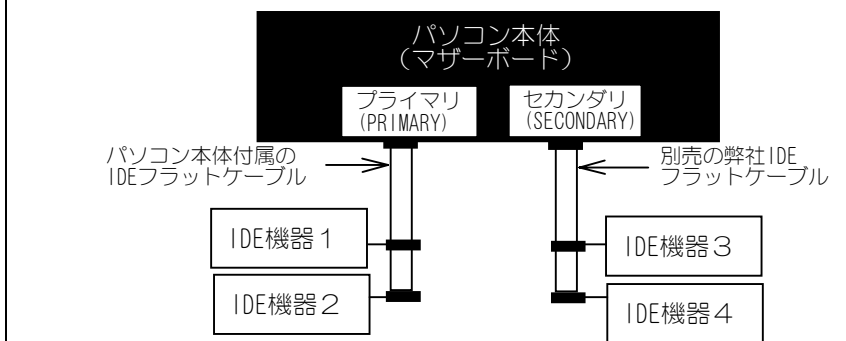
本製品は、IDE機器としてパソコン（マザーボード）に接続します。

●　パソコンに接続できるIDE機器数は、最大4台まで

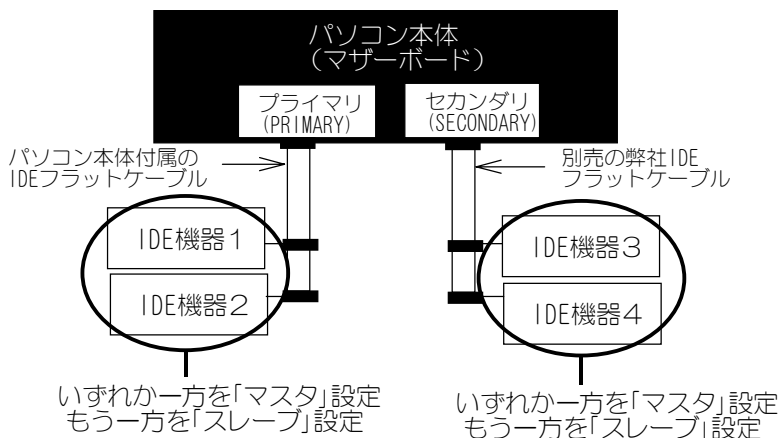
パソコン（マザーボード）には、「プライマリ」（PRIMARY）と「セカンダリ」（SECONDARY）の2つのコネクタがあります。IDEフラットケーブルを使ってそれぞれ2台づつ計4台までのIDE機器を接続することができます。（下図参照）

●　接続ケーブルについて

IDE機器はIDEフラットケーブルで接続します。
IDEフラットケーブルには、1ドライブ用（1台しか接続できない）と2ドライブ用（2台接続できる）があります。
パソコンに付属のIDEケーブルのケーブル長が短い場合や、1ドライブ用から2ドライブ用に変更したい場合は、別途弊社オプションケーブルをご購入ください。オプションケーブルについては【オプション品について】(103ページ)をご覧ください。

＜IDE機器4台接続例＞

2　マスタ／スレーブ／ケーブルセレクトについて

パソコンに接続するIDE機器は「マスタ」、「スレーブ」または「ケーブルセレクト」の設定が必要です。

例えば「プライマリコネクタ」に2台のIDE機器を接続する場合、一方を「マスタ」にもう一方を「スレーブ」に設定して接続する必要があります。

※ 富士通FMVシリーズの一部の機種では、「ケーブルセレクト」設定にて接続しなければならない場合もあります。（「ケーブルセレクト」設定については、パソコンの取扱説明書をご覧ください。）

【ハードディスクのドライブ名について】

ハードディスクのドライブ名の割り当てはプライマリが先に行われます。
同じ系列でのドライブ名の割り当てはマスタが先になります。

・「ケーブルセレクト」設定の場合
パソコン購入時に「パソコン標準の内蔵ハードディスクが接続されていたコネクタ」に接続したハードディスクが先になります。

本製品および内蔵ハードディスクの設定

ここでは、本製品を取り付ける前に設定する方法を説明しています。

1　本製品を設定する

設定はジャンパピンで行います。

ジャンパの設定方法について
本製品のジャンパの設定は、別紙の【ハードウェア仕様について】を参照してください。その際、表記されている位置以外にジャンパを挿さないでください。

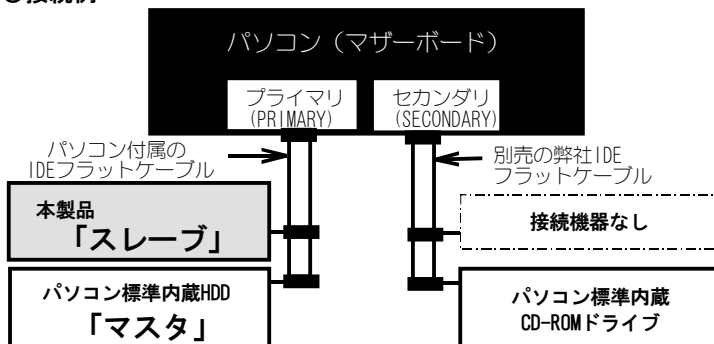
IDEの優先順位について
「プライマリマスタ」→「プライマリスレーブ」→「セカンダリマスタ」→「セカンダリスレーブ」の順となります。

パソコンのIDEケーブルにコネクタが1つしかない場合
パソコン標準ハードディスクのIDEケーブルを取り外し、弊社製IDEケーブル「FL-140」などをお使いください。

本製品の設定を「ケーブルセレクト」にしなくてはならない場合
下の場合は、本製品を「ケーブルセレクト」に設定してください。
・富士通FMVシリーズをお使いでFMVシリーズの取扱説明書に「ケーブルセレクト」に設定するように指定されていた場合
・本製品を取り付けるケーブルにすでに取り付けられているIDE機器が「ケーブルセレクト」に設定されている場合

●　本製品を増設用としてお使いの場合

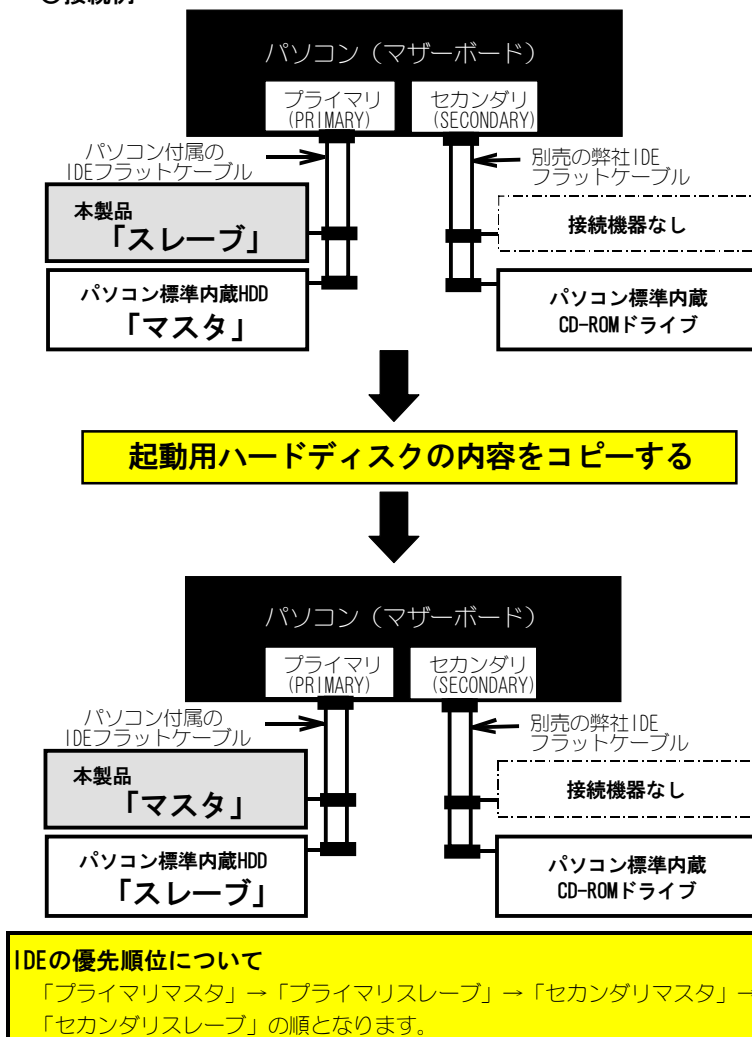
本製品は、今までにあるハードディスクより優先順位を低く設定します。

◎接続例

● 本製品を起動用としてお使いの場合

本製品は、今までにあるハードディスクより優先順位を低く設定し、現在の起動用ハードディスクの内容をコピーした後で、最優先に設定します。

◎接続例

IDEの優先順位について

「プライマリマスタ」→「プライマリスレーブ」→「セカンダリマスタ」→「セカンダリスレーブ」の順となります。

2　パソコン標準の内蔵ハードディスクを設定する

本製品を内蔵ハードディスクと同じIDEフラットケーブルに取り付ける場合、パソコン標準の内蔵ハードディスクの設定をしなければならない場合があります。

FMVシリーズで本製品を「ケーブルセレクト」設定にされた方はここを読み飛ばして、【3 ケーブル接続時の注意事項】(25ページ)へお進みください。

まずはお使いの内蔵ハードディスクの設定の変更が必要かどうかを確認するために、以下の手順を行ってください。

① パソコンの内蔵ハードディスクを取り外してください。

② そのハードディスクに**「Western Digital」**という記述がないか確認します。

《「Western Digital」という記述が無い場合》

「マスタ」設定となっていますので、特に変更する必要はありません。【3 ケーブル接続時の注意事項】(25ページ)へお進みください。

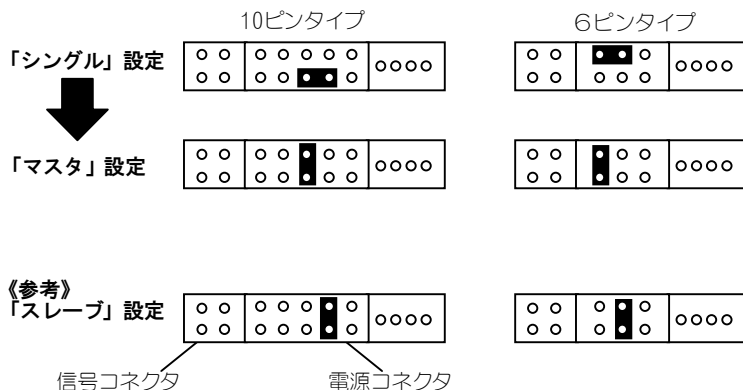
《「Western Digital」という記述があった場合》

・ジャンパピンが１つ付いている場合

Western Digital社製ハードディスクの場合、**「シングル」設定から「マスタ」設定に変更する必要があります。**（次ページ参照）

変更後、【3 ケーブル接続時の注意事項】(25ページ)へお進みください。

・ジャンパピンが２つ付いている場合

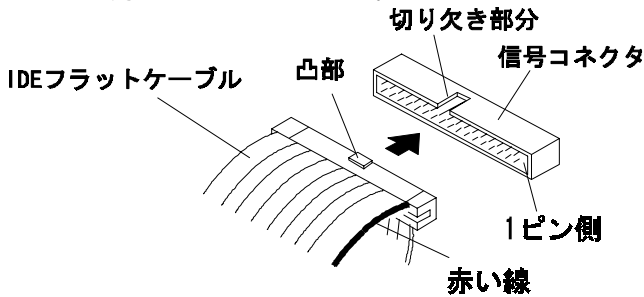
「マスタ」設定となっていますので、特に変更する必要はありません。【3 ケーブル接続時の注意事項】(25ページ)へお進みください。

※ 「シングル」設定は、IDEフラットケーブル（の２つのコネクタ）にWestern Digital社製ハードディスク1台しか接続しない場合の設定です。

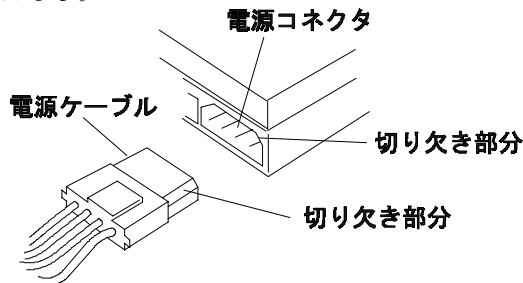
3　ケーブル接続時の注意事項

ケーブルをコネクタに差し込むときは、ケーブルの向きに注意してください。

逆向きだと差し込めないようになっていますが、無理に差し込もうとすると、コネクタを破損する恐れがあります。

・IDEフラットケーブルの場合

IDEフラットケーブルのコネクタの中央にある凸部が、信号コネクタの切り欠き部分と合うように挿入します。（中央の凸部がない場合は、赤い線とコネクタの1ピンの向きを合わせてください。）

・電源ケーブルの場合

電源ケーブルのコネクタの切り欠き部分と、電源コネクタの切り欠き部分が合うように挿入します。

それでは取り付けましょう。

- 【PC98-NXシリーズに取り付ける】（次ページ）
- 【DOS/Vマシンに取り付ける】（29ページ）

PC98-NXシリーズに取り付ける

ここでは、本製品をPC98-NXシリーズに取り付ける方法について説明します。

1　5インチベイに取り付ける場合

1 用意するもの

以下の※がついているものは、別途用意するものです。

部品の形状などは【箱の中には】(3ページ)でご確認ください。

1．ハードディスク本体
2．5インチベイ用取り付け金具
3．金具取付用ネジ(4個)
4．本体装着用ネジA(4個)
5．＋（プラス）ドライバー(1本)※
　なるべく柄の長いものをご用意ください
6．パソコンの取扱説明書※（ガイドブック）
7．使う転送方式に対応したIDEフラットケーブル※

2 取り付け前の準備

1 本製品のジャンパ設定を変更します。

ジャンパ設定方法は、別紙の【ハードウェア仕様について】をご覧ください。

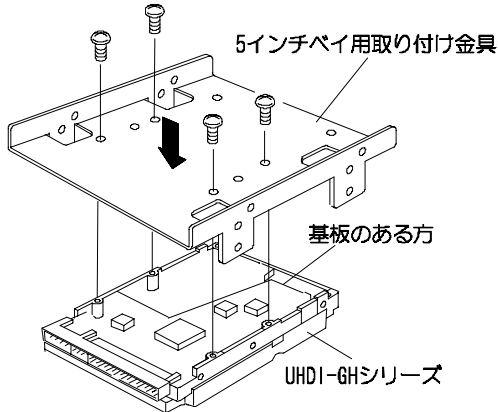
本製品を増設用として使う場合
　本製品は、今までにあるハードディスクより優先順位を低く設定します。

本製品を起動用として使う場合
　本製品は、今までにあるハードディスクより優先順位を低く設定し、現在の起動用ハードディスクの内容をコピーした後で、最優先に設定します。

IDEの優先順位について
　「プライマリマスタ」→「プライマリスレーブ」→「セカンダリマスタ」→「セカンダリスレーブ」の順となります。

2 本製品に5インチベイ用取り付け金具を付けます。

①本製品を裏返し、基板のある方を上に向けます。

②金具取付用ネジを4個取り付けて、金具を固定します。

3 パソコンへの取り付け

パソコンの取扱説明書を参照し、作業を行ってください。

取り付け用のネジは、本製品に入っている金具取付用ネジを使ってください。

パソコンのIDEケーブルにコネクタが1つしかない場合

パソコン標準ハードディスクのIDEケーブルを取り外し、弊社製IDEケーブル「FL-140H」などをお使いください。

4 取り付けが終わったら

本製品の取り付け後、【取り付け後に設定すること】(32ページ)にお進みください。

2　内蔵3.5インチベイに取り付ける場合

1 用意するもの

以下の※がついているものは、別途用意するものです。

用意する部品の形状などは【箱の中には】(3ページ)でご確認ください。

1．ハードディスク本体
2．金具取付用ネジ(4個)
　機種によっては使わない場合があります。
　（【取り付け金具を確認しよう】(16ページ)）
3．＋（プラス）ドライバー(1本)※
　なるべく柄の長いものをご用意ください
4．パソコンの取扱説明書※（ガイドブック）
5．**弊社製取り付け金具※（別売オプション）**
　「HDK-NXS（デスクトップ用）」または「HDK-NXM（ミニタワー用）」
　機種によっては使わない場合があります。
　（【取り付け金具を確認しよう】(16ページ)）

2 取り付け前の準備

本製品のジャンパスイッチを設定してください。

ジャンパ設定方法は、別紙の【ハードウェア仕様について】をご覧ください。

本製品を増設用として使う場合

本製品は、今までにあるハードディスクより優先順位を低く設定します。

本製品を起動用として使う場合

本製品は、今までにあるハードディスクより優先順位を低く設定し、現在の起動用ハードディスクの内容をコピーした後で、最優先に設定します。

IDEの優先順位について

「プライマリマスタ」→「プライマリスレーブ」→「セカンダリマスタ」→「セカンダリスレーブ」の順となります。

3 パソコンへの取り付け

弊社製取り付け金具（別売オプション）に添付されている【HDK-NXシリーズ取扱説明書】の《取り付け時の注意事項》および『「UHDIシリーズ」を増設する場合』の項をよくお読みになって、取り付けを行ってください。

4 取り付けが終わったら

取り付け後、【取り付け後に設定すること】(32ページ)にお進みください。

DOS/Vマシンに取り付ける

ここでは、本製品をDOS/Vマシンに取り付ける方法について説明します。

1　増設内蔵ハードディスクスロットに取り付ける場合

1 用意するもの

以下の※がついているものは、別途用意するものです。

用意する部品の形状などは【箱の中には】(3ページ)でご確認ください。

1．ハードディスク本体

2．金具取付用ネジ(4個)

3．＋（プラス）ドライバー(1本)※
　なるべく柄の長いものをご用意ください

4．パソコンの取扱説明書※（ガイドブック）

5．使う転送方式に対応したIDEフラットケーブル※

2 取り付け前の準備

本製品のジャンパ設定をお使いの環境によって「スレーブ」または「ケーブルセレクト」に変更します。

ジャンパ設定方法は、別紙の【ハードウェア仕様について】をご覧ください。

（詳細は【2 マスタ／スレーブ／ケーブルセレクトについて】(20ページ)参照）

3 パソコンへの取り付け

パソコンの取扱説明書を参照し、作業を行ってください。

取り付け用のネジは、本製品に入っている金具取付用ネジを使ってください。

4 取り付けが終わったら

本製品の取り付け後、【取り付け後に設定すること】(32ページ)にお進みください。

2　ファイルベイに取り付ける場合

1 用意するもの

以下の※がついているものは、別途用意するものです。

用意する部品の形状などは【箱の中には】(3ページ)でご確認ください。

1．ハードディスク本体

2．5インチベイ用取り付け金具

3．金具取付用ネジ(4個)

4．本体装着用ネジA(4個)

5．＋（プラス）ドライバー(1本)※
　なるべく柄の長いものをご用意ください

6．パソコンの取扱説明書※（ガイドブック）

7．使う転送方式に対応したIDEフラットケーブル※

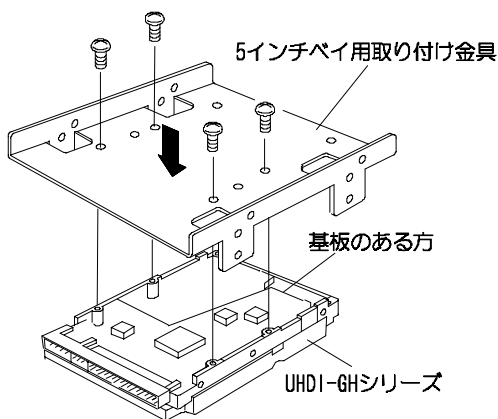
2 取り付け前の準備

1 本製品のジャンパ設定をお使いの環境によって変更します。

ジャンパ設定方法は、別紙の【ハードウェア仕様について】をご覧ください。

2 本製品に5インチベイ用取り付け金具を付けます。

①本製品を裏返し、基板のある方を上に向けます。

②金具取付用ネジを4個取り付けて、金具を固定します。

3 パソコンへの取り付け

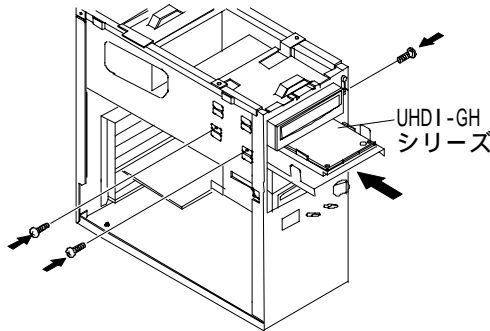
詳細については、パソコンの取扱説明書を参照してください。

1 パソコンおよび周辺機器の電源を切り、コンセントを抜きます。

2 パソコンのカバーをはずします。

ルーフカバー、フロントカバーおよびファイルベイのカバーを外します。

3 本製品を取り付けます。

※添付の本体装着ネジAを使います。

4 パソコン付属のケーブルを本製品に接続します。

パソコン付属の電源ケーブル、IDEフラットケーブルを本製品に接続します。

5 パソコンのカバーを取り付けます。

ルーフカバーおよびフロントカバーを取り付けます。

6 パソコンを立ち上げ、BIOSの設定を行います。

機種によってはハードディスクをAUTOで認識する場合もありますので、
BIOS設定の詳細についてはパソコンの取扱説明書を参照してください。

4 取り付けが終わったら

本製品の取り付け後、次ページの【取り付け後に設定すること】にお進みください。

取り付け後に設定すること

1　転送モードを決める（Windows Me/98/95の場合のみ）

パソコンの取扱説明書に下のように案内されているかどうか確認してください。

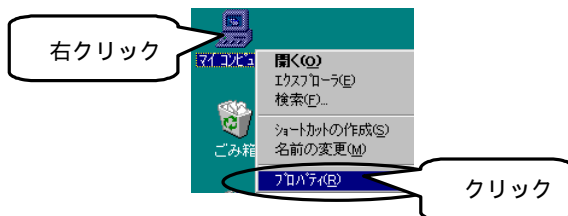
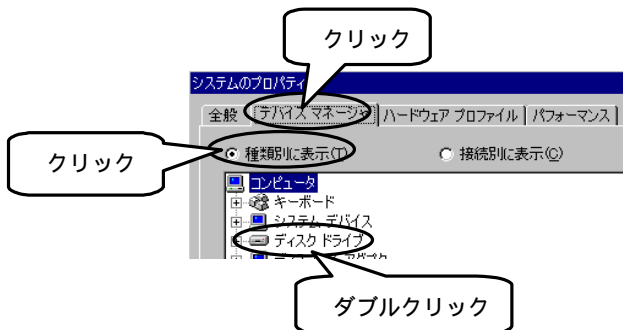
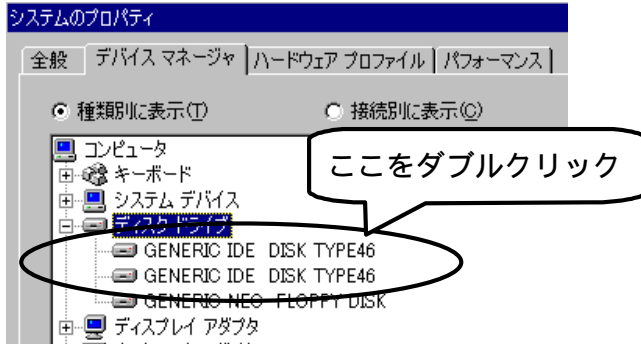
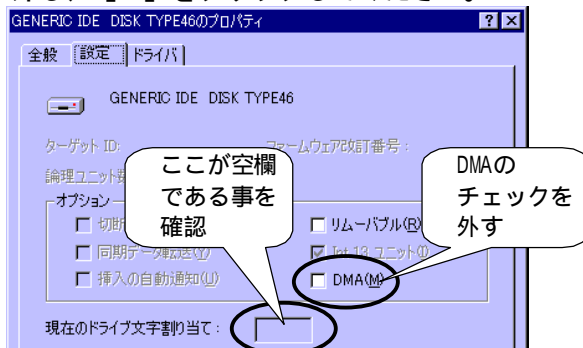
- **増設したハードディスクはPIOモードで転送する**
- **増設したハードディスクでDMA転送をしない**

上のように書かれている場合は、

以下の設定を行ってください。

上のように書かれていない場合は

以下の設定は行わないでください。この設定をすると、本製品は性能を発揮できません。そのまま、【2　本製品を使うには】(34ページ)へお進みください。

ステップ1：『マイコンピュータ』を右クリックし、表示された［プロパティ］をクリックする。

ステップ2：「デバイスマネージャ」タブをクリックし、「種類別に表示」での「ディスクドライブ」をダブルクリックする。

ステップ３：「GENERIC IDE DISK ････」をダブルクリックします。
複数の「GENERIC IDE DISK ････」が表示されている場合は、上から順にダブルクリックしてください。

ステップ４：「現在のドライブ文字割り当て」が空欄のドライブが本製品です。（空欄で無い場合は、他のハードディスクです。もう一度ステップ3に戻り別のドライブをダブルクリックしてください。）
「オプション」の「DMA」のチェックが入っていないことを確認してください。チェックされていた場合はチェックを外し、［OK］をクリックしてください。

以上で設定終了です。

2 本製品を使うには

本製品は出荷時フォーマットされていませんので、取り付け後は、以下のいずれかを行わないと使えません。

起動用ハードディスクとして使う

ここでは、本製品に現在使っている内蔵ハードディスクのデータをコピーして
本製品を起動ディスクにする方法を説明しています。

OSのインストールについて

OSをインストールする際には、お使いのパソコンによりインストール方法が異なったり、インストーラーが大容量ハードディスクに対応していない場合があります。
そのため、弊社ではOSのインストールについてのサポート・保証はいたしておりません。
B'sCrew for Windowsにて起動用ハードディスクの内容をコピーする方法のみサポートさせていただきます。

入れ替え手順の概要

本手順の概要について説明します。(36ページ)

▼

Windows Me/98/95での入れ替え手順

Windows Me/98/95でB'sCrewを使って入れ替えを行う方法を説明します。(38ページ)

入れ替え手順の概要

●Windows Meをお使いの場合

Windows Meの起動ディスクを用意した後、添付の『B'sCrew for Windows』を使って現在お使いの環境をそのまま本製品にコピーし、起動用ハードディスクとしてお使いいただけます。
環境の移行が確認されるまでは、元の環境を残すことをおすすめします。

● Windows Meの起動ディスクの作り方

1 **Windows Meを起動します。**

2 **［アプリケーションの追加と削除］を起動します。**

［スタート］→［設定］→［コントロールパネル］の順にクリックし、［アプリケーションの追加と削除］アイコンをダブルクリックします。

3 **［起動ディスク］タブをクリックします。**

4 **［ディスクの作成］ボタンをクリックします。**

5 **後は画面の指示に従って操作してください。**

起動ディスクについて
作成した起動ディスクは「書込み禁止」にしないでください。
また、B'sCrew for Windowsで使った後はパソコンの起動用として使うことはできません。ご注意ください。

●Windows 98/95をお使いの場合

添付の『B'sCrew for Windows』を使って、現在お使いの環境をそのまま本製品にコピーし、起動用ハードディスクとしてお使いいただけます。
環境の移行が確認されるまでは、元の環境を残すことをおすすめします。

●Windows 2000、Windows NT、Windows 3.1、MS-DOS(PC DOS)をお使いの場合

本製品へのOSのインストールにつきましては、弊社ではサポート・保証はいたしておりません。

また、起動用のハードディスクとしてお使いの際には、環境の移行が確認されるまでは、元の環境を残すことをおすすめします。

Windows Me/98/95での入れ替え手順

『B'sCrew for Windows』を使って、購入した本製品を既存の起動ドライブと交換し、起動用とすることができます。

1　B'sCrew for Windowsについて

B'sCrew for WindowsはWindows Me/98/95用です。

※Windows 2000,Windows NT,Windows 3.1では使えません。

B'sCrew for Windowsを使って、購入した本製品を既存の起動ドライブとまるごと交換し、起動用とすることができます。

（操作手順については、【２　使用中の内蔵ハードディスク(起動用)と入れ替える】(次ページ)参照）

その他にも、ドライブのフォーマット、ドライブのパーティションの編集などの機能があります。

詳細な機能の説明、インストール方法、使用方法などは『B'sCrew for Windows ユーザーズマニュアル』を参照してください。

また、『B'sCrew for Windows ユーザーズマニュアル補足情報』も合わせてご覧ください。

2　使用中の内蔵ハードディスク(起動用)と入れ替える

ここでは、『B'sCrew for Windows』を使った起動用設定の手順を簡単に説明します。

インストール方法その他詳細については『B'sCrew for Windowsユーザーズマニュアル』を参照してください。

B'sCrew for Windowsに関するお問い合わせ

B'sCrew for Windowsに関しては、
ビー・エイチ・エー社までお問い合わせください。

●お問い合わせ先
株式会社ビー･エイチ･エー　サポートセンター

TEL　06-4861-8234
FAX　06-6378-3336

受付時間：月～金曜日　10:00～17:00
（夏期･年末年始特定休業日、祝祭日を除く）

また、B'sCrew for Windowsのアップデート情報等が、㈱ビー・エイチ・エー社のホームページで案内されています。

http://www.bha.co.jp/download/

最新のバージョンでお使いになることをおすすめします。

以下の画面例は、起動用IDEハードディスクからUHDI-4.3GHへコピーする例です。
（『B'sCrew for Windowsユーザーズマニュアル』【CHAPTER 2 の3.ドライブの内容を他のドライブにコピーする】を参照）

Windows Meでお使いの場合
Windows Meの起動ディスクが必要です。
【●Windows Meの起動ディスクの作り方】(36ページ)をご覧ください。

1 パソコンの電源を切ります。

2 本製品をパソコンに接続します。

（【取り付けよう】(15ページ)参照）

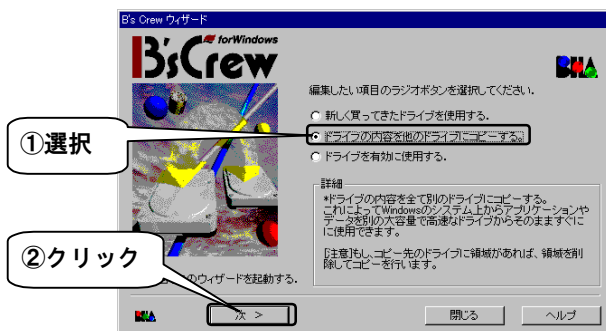
3 Windows Me/98/95を起動します。

B'sCrew for Windowsがインストールされていなければ、インストールします。（『B'sCrew for Windowsユーザーズマニュアル』参照）

4 B'sCrew for Windowsを起動します。

［スタート］→［プログラム］→［B'sCrew for Windows］→［B'sCrew for Windows］をクリックすると起動します。

5

6

コピー元とは？

今使っているハードディスクのことです。

複数のハードディスクがある場合は、間違えないようにしてください。

7

8

容量確認について

コピー先の容量が、コピー元の容量より大きいことを確認します。

9 後は画面の指示に従って操作してください。

コピーが終了しましたら、スキャンディスクでハードディスクのチェックを行うことをおすすめします。

> **Windows Meでお使いの場合**
> **作業中にWindows Meの起動ディスクを要求されます。**

10 Windows Me/98/95を終了し、パソコンの電源を切ります。

11 本製品を「マスタ」設定にします。

1. 起動用内蔵ハードディスクを取り外します。
2. 本製品を取り外し、ジャンパ設定を「マスタ」にして取り付け直します。（本製品のジャンパの設定は、別紙の【ハードウェア仕様について】を参照）

12 パソコンを起動します。

パソコンの電源を入れます。

13 いつも通りにパソコンが起動すれば作業は終了です。

コピーしただけでは、コピー元（使用中の内蔵ハードディスク）と同じ容量となります。容量を変更したい場合は、B'sCrew for Windowsユーザーマニュアルの【CHAPTER 3の2 パーティションを編集する】を参照してください。
ただし、容量を変更するパーティションに10%の空き容量が必要です。

> **起動用内蔵ハードディスクについて**
> **起動用内蔵ハードディスクをそのまま保存しておきますと、何らかのトラブルがあった際に起動用内蔵ハードディスクの内容を再び本製品にコピーすることができます。**
>
> **起動用内蔵ハードディスクをお使いになる場合は、「プライマリ」に「スレーブ」設定で取り付けてください。**
> **その後、フォーマットしてお使いください。**

増設用ハードディスクとして使う

フォーマット手順の概要
フォーマットについて説明します。（44ページ）

▼

パーティションについて
パーティションについて説明します。（46ページ）

▼

パーティション最大容量の制限について
OSによる容量の制限について説明します。（48ページ）

▼

フォーマット後のドライブ名について
ドライブ名が変わることについて説明します。（50ページ）

▼

13Gバイト以上の本製品を使うには（DOS/Vマシンのみ）
13Gバイト以上の本製品を使う際に、注意しなければならないことを説明します。（53ページ）

▼

Windows Me/98/95でのフォーマット
Windows Me/98/95でフォーマットする方法について説明します。（54ページ）

or

Windows 2000でのフォーマット
Windows 2000でフォーマットする方法について説明します。（59ページ）

or

Windows NTでのフォーマット
Windows NTでフォーマットする方法について説明します。（71ページ）

or

Windows 3.1およびMS-DOS(PC DOS)でのフォーマット（DOS/Vマシンのみ）
Windows 3.1およびMS-DOS(PC DOS)でフォーマットする方法について説明します。（73ページ）

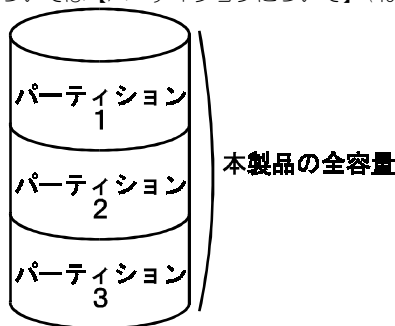
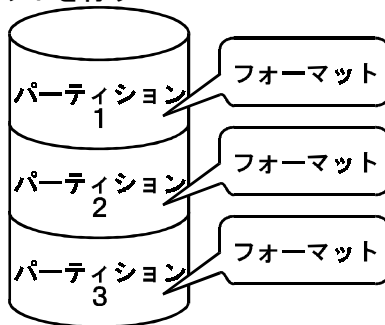
フォーマット手順の概要

・本製品以外のハードディスクをフォーマットしないよう十分ご注意ください。
・フォーマットやその他の動作で本製品へのアクセス中は、絶対にパソコンの電源を切ったり、パソコンをリセットしたりしないでください。

●フォーマット手順の概要

フォーマットは以下の手順で行います。

①パーティション（区画領域）※の領域確保を行う

※ パーティションについては【パーティションについて】(46ページ)参照

②その領域のフォーマットを行う

●フォーマット手順

フォーマット手順はOSにより異なります。
また、使っているOSおよび本製品により、制限事項があります。
【パーティションについて】(46ページ)～【13Gバイト以上の本製品を使うには（DOS/Vマシンのみ）】(53ページ)を確認した後、以下の各OS毎の手順を参照してください。

- **Windows Me/98/95の場合**
  【Windows Me/98/95でのフォーマット】(54ページ)
- **Windows 2000の場合**
  【Windows 2000でのフォーマット】(59ページ)
- **Windows NTの場合**
  【Windows NTでのフォーマット】(71ページ)
- **Windows 3.1,MS-DOS(PC DOS)の場合**
  【Windows 3.1およびMS-DOS(PC DOS)でのフォーマット】(73ページ)

パーティションについて

ハードディスクを使うには、１つ以上のパーティション（区画領域）を作成する必要があります。

●１つのパーティション＝１つのドライブ

ハードディスクのパーティションは、作成したパーティション単位にドライブ名が割り当てられます。

●パーティションの種類

◆ Windows Me/98/95/NT,Windows 3.1およびMS-DOS(PC DOS)の場合

パーティションには以下の2つがあります。

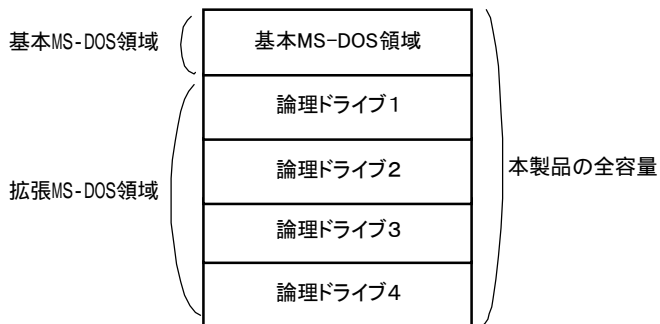
・基本MS-DOS領域

「基本MS-DOS領域」は1つしか作成できません。
また、ハードディスクを増設用として使う場合には、「基本MS-DOS領域」を作成せず、「拡張MS-DOS領域（の論理ドライブ領域）」だけを作成しても使えます。

・拡張MS-DOS領域の論理ドライブ領域

「拡張MS-DOS領域の論理ドライブ領域」は、「拡張MS-DOS領域」内に作成します。複数作成することができます。

本製品内に「基本MS-DOS領域」が１つと「拡張MS-DOS領域」内に論理ドライブが４つある例

基本MS-DOS領域	基本MS-DOS領域	本製品の全容量
拡張MS-DOS領域	論理ドライブ1	
	論理ドライブ2	
	論理ドライブ3	
	論理ドライブ4	

◆ Windows 2000の場合

パーティションには以下の２つがあります。

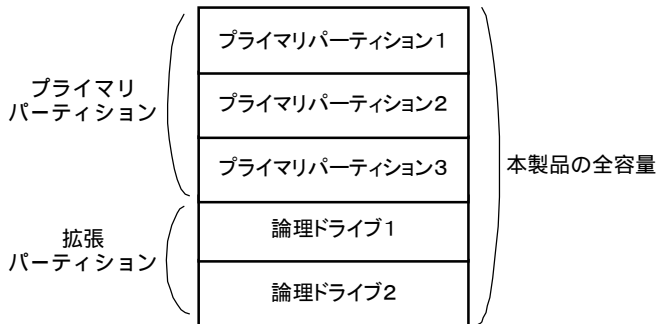
・プライマリパーティション

「プライマリパーティション」は４つまで作ることができます。ただし、「拡張パーティション」を作る場合は３つまでとなります。

・拡張パーティション

「拡張パーティション」は１つ作ることができます。

「拡張パーティション」内に、プライマリパーティションと同じように使える論理ドライブを複数作ることができます。論理ドライブを複数作ることにより、ハードディスクを４つ以上に分けることができます。

本製品内に「プライマリパーティション」が３つと「拡張パーティション」内に論理ドライブが２つある例

パーティション最大容量の制限について

OSにより１パーティションに割り当てられる最大容量に制限があります。

フォーマッタソフトやフォーマットコマンドでパーティションのサイズ（容量）を設定することができますが、使うOSによって最大容量に制限があります。（以下の【●OS毎の１パーティションの最大容量】参照）

※Windows 95ではバージョンによっても制限があります。（バージョンの確認方法は次ページ【Windows 95バージョン番号の確認方法】参照）

最大容量を超える容量は、いくつかのパーティションに分割して使うことになります。

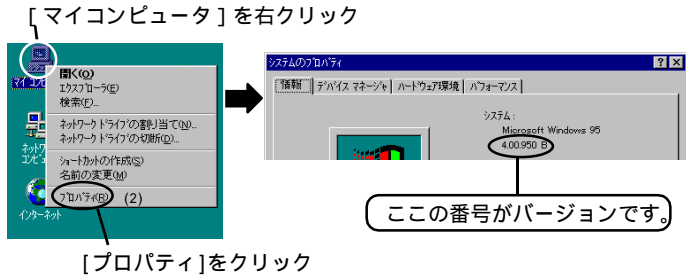
●OS毎の１パーティションの最大容量

OS	1パーティションの最大容量
Windows Me(FAT32使用時)	２Tバイトまで
Windows 98(FAT32使用時)	２Tバイトまで
Windows 95(FAT32使用時) (4.00.950 B/4.00.950 C)	２Tバイトまで
Windows 95(FAT16使用時) (4.00.950/4.00.950a/4.00.950 B/ 4.00.950 C)	2,047Mバイトまで
Windows 2000(NTFS使用時)	408,000,000Tバイトまで
(FAT32使用時)	32Gバイトまで※
(FAT16使用時)	4,095Mバイトまで
Windows NT(NTFS使用時)	408,000,000Tバイトまで
(FAT使用時)	4,095Mバイトまで
MS-DOS(PC DOS) Ver 5.0(/V)以降	2,047Mバイトまで

※ Windows 98などの他のOSにて作成した2Tバイトまでのパーティションを認識することはできます。

1Tバイト＝1,000Gバイト＝1,000,000Mバイト
1Gバイト＝　　1,000Mバイト

《 Windows 95バージョン番号の確認方法》

Windows 95のバージョン（4.00.950、4.00.950a、4.00.950 B、4.00.950 C）は以下の手順で確認できます。

フォーマット後のドライブ名について

本製品を取り付ける前の各ドライブのドライブ名（ドライブ番号）は、本製品取り付け後に変わる場合があります。

●パソコンの内蔵ハードディスクのドライブ名が変わるパターン

《パソコン標準の内蔵ハードディスクを「基本MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域」に分けている場合》

（２つ以上のパーティションで使っている場合）

※パソコン標準の内蔵ハードディスクに「拡張MS-DOS領域」があるかどうかの確認は【Windows Me/98/95で「拡張MS-DOS領域」を確認する】(101ページ)の方法で確認できます。

本製品を接続し、フォーマットすると、ドライブ名（ドライブ番号）が変わってしまいます。（次ページ図参照）

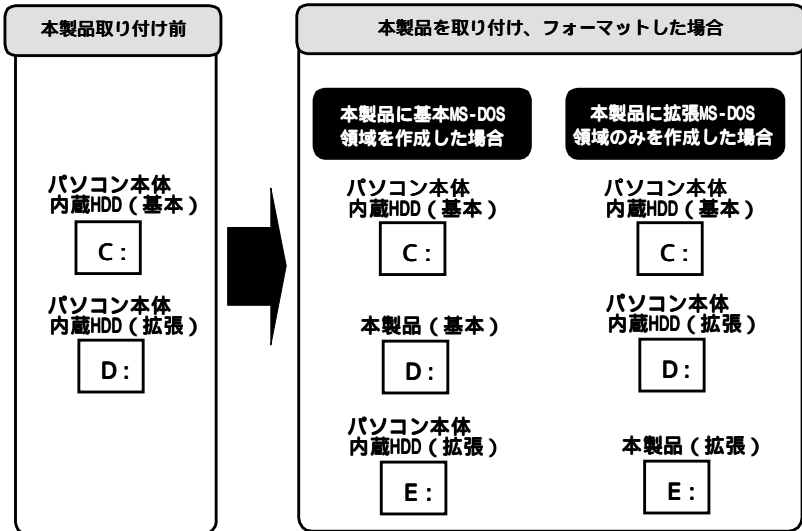
基礎知識

「基本MS-DOS領域」が「拡張MS-DOS領域」よりも優先されます。

例えば、内蔵ハードディスクに「拡張MS-DOS領域」がある場合に本製品に「基本MS-DOS領域」を作成すると

内蔵ハードディスクの「拡張MS-DOS領域」(のドライブ名）よりも本製品の「基本MS-DOS領域」(のドライブ名）が優先されます。

内蔵ハードディスクの「拡張MS-DOS領域」のドライブ名が変更されます。

例）本製品取り付け前と、フォーマット後でのドライブ名

()内の"基本"は「基本MS-DOS領域」
()内の"拡張"は「拡張MS-DOS領域」の略です。
□内のアルファベットはドライブ名を表しています。

上の例では、本製品に「基本MS-DOS領域」を作成すると、パソコン標準の内蔵ハードディスクの「基本MS-DOS領域」のドライブ名が変更（D：からE：に）されていることが分かります。

ドライブ名を変更したくない場合

本製品には「拡張MS-DOS領域」のみ作成してください。
【Windows Me/98/95のFDISKでフォーマットする】(82ページ)参照

※Windows Me/98/95用のB'sCrew for Windowsでは、必ず「基本MS-DOS領域」を作成しますので、【Windows Me/98/95でのフォーマット】(54ページ)の①のフォーマット方法は実行しないでください。

●内蔵ハードディスク以外のドライブ名が変わるパターン

例えば、CD-ROMの場合、本製品フォーマット後、取り付けた本製品のドライブ番号が内蔵ハードディスクとCD-ROMのドライブ番号との間に入ります。

【ドライブ番号変更に関する注意】

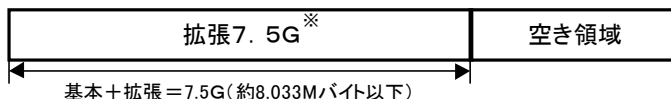
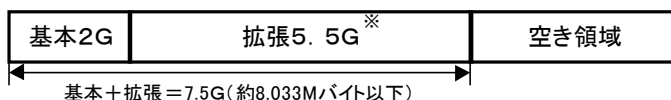
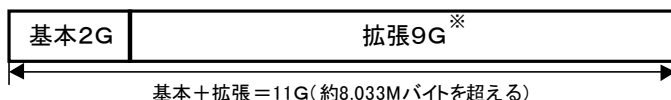
本製品フォーマット後は、CD-ROMのドライブ番号を指定したバッチファイルなどがある場合は新しいドライブ番号に変更してください。
また、CONFIG.SYSにLASTDRIVEの設定が必要となる場合があります。

13Gバイト以上の本製品を使うには
（DOS/Vマシンのみ）

●Windows Me(FAT16), Windows 98(FAT16), Windows 95［4.00.950, 4.00.950a, 4.00.950 B(FAT16), 4.00.950 C(FAT16)］をお使いの場合

「基本MS-DOS領域」および「拡張MS-DOS領域」の容量の合計が約8,033Mバイトを超える場合、MS-DOS(PC DOS)ではその「拡張MS-DOS領域」にアクセスすることができません。
MS-DOS(PC DOS)でもお使いの場合は、基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域の合計が約8,033Mバイトを超えないように設定してください。

UHDI-13GH/DVの場合

正　「基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域の合計」が約8,033Mバイトを超えていないのでMS-DOSで使用する事が出来ます。

誤　「基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域の合計」が約8,033Mバイトを超えているので拡張MS-DOS領域は使えません。基本MS-DOS領域の2Gのみ使用可能です。

※　拡張MS-DOS領域は、中に複数の論理ドライブ領域を作成できます。

●Windows 3.1, MS-DOS(PC DOS)をお使いの場合

ハードディスク１台の容量が約8,033Mバイトより大きい場合は認識されずに、最大約8,033Mバイトのハードディスクとしてのみお使いいただけます。

Windows Me/98/95でのフォーマット

Windows Me/98/95でフォーマットを行うには、以下の①または②いずれかの方法があります。

① 「B'sCrew for Windows」を使って行う方法

（添付の『B'sCrew for Windowsユーザーズマニュアル』参照）

パソコン標準の内蔵ハードディスクに「拡張MS-DOS領域」がある場合、本製品をこの方法でフォーマットすると、**ドライブ名が入れ替わります。**（詳細は、【フォーマット後のドライブ名について】(50ページ)参照）

変えたくない場合は、以下の②の手順を行ってください。
内蔵ハードディスクに「拡張MS-DOS領域」があるかどうかを確認したい場合は、【Windows Me/98/95で「拡張MS-DOS領域」を確認する】(99ページ)を参照してください。

② 「FDISK」を使って行う方法
（FDISK上で領域確保後、Windows上でフォーマットする方法）

（【Windows Me/98/95のFDISKでフォーマットする】(82ページ)を参照）

ここでは次ページ以降で、上記①の添付の『B'sCrew for Windows』を使ったフォーマット手順を簡単に説明します。

インストール方法その他詳細については『B'sCrew for Windowsユーザーズマニュアル』を参照してください。

● フォーマット手順

B'sCrew for Windowsに関する お問い合わせ

**B'sCrew for Windowsに関しては、
ビー・エイチ・エー社までお問い合わせください。**

●お問い合わせ先
株式会社ビー･エイチ･エー　サポートセンター
TEL　06-4861-8234
FAX　06-6378-3336
受付時間：月～金曜日　10:00～17:00
（夏期･年末年始特定休業日、祝祭日を除く）

1 Windows Me/98/95を起動します。

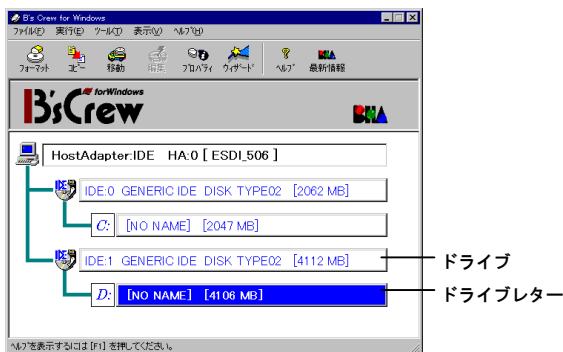
B'sCrew for Windowsがインストールされていなければ、インストールします。（『B'sCrew for Windowsユーザーズマニュアル』参照）

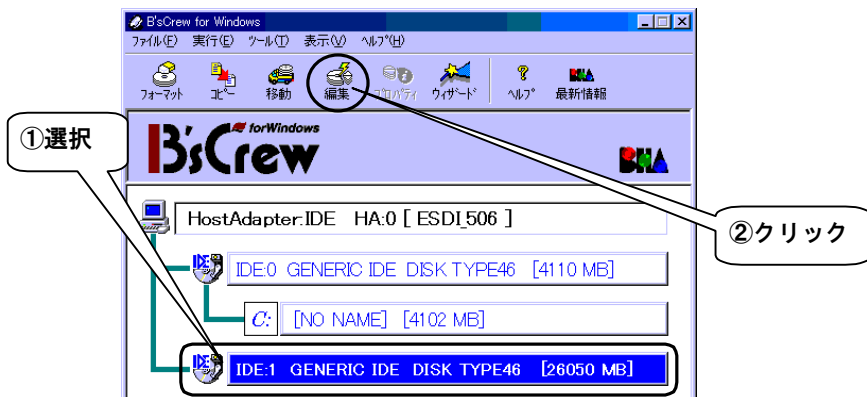
2 B'sCrew for Windowsを起動します。

［スタート］→［プログラム］→［B'sCrew for Windows］→［B'sCrew for Windows］をクリックします。

3 ウィザードが表示されたら、［閉じる］をクリックします。

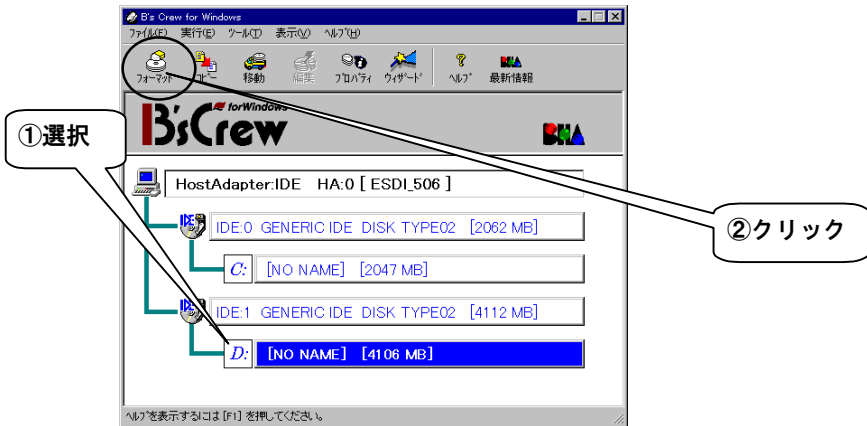
4 ドライブレターがあるかどうかを確認します。

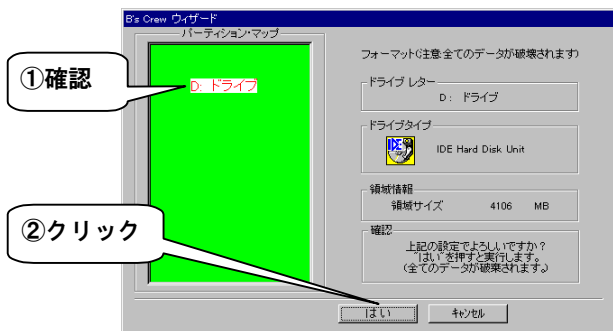
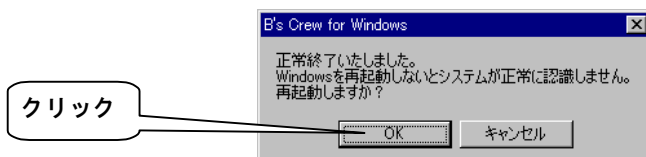
ドライブレターがない場合は**5**へ、
ドライブレターがある場合は**7**へ進んでください。

ドライブを選択するかドライブレターを選択するかでフォーマットの内容が違います。ドライブを選択するとドライブ全体をフォーマットしますので注意してください。

5 ドライブを選び、［編集］ボタンをクリックします。

6 パーティションを作成します。

パーティションの作成方法は、「B's Crew for Windowsユーザーズマニュアル」の「パーティションの編集」に対する説明個所をご覧ください。
終わりましたら、9 へ進んでください。

7 フォーマットを行います。

フォーマットしたいドライブレターを選択し、［フォーマット］ボタンをクリックします。

本製品以外のハードディスクをフォーマットしないよう、ご注意ください。

8 選択が正しければ、［はい］ボタンをクリックします。

9 ［OK］ボタンをクリックし、再起動します。

10 以上でフォーマットは終了です。

パーティション編集後、【本製品のフォーマット後にドライブ名が変わる場合】のように、割り込んでしまった本製品を元に戻したい場合

⇒手順 **2** からフォーマットしてください。そのとき、手順 **7** で「ドライブレター」ではなく、「ドライブ」を選択し、フォーマットしてください。
その後、【Windows Me/98/95のFDISKでフォーマットする】(82ページ)のFDISKコマンドで領域確保し直してください。

Windows 2000でのフォーマット

ディスクの署名

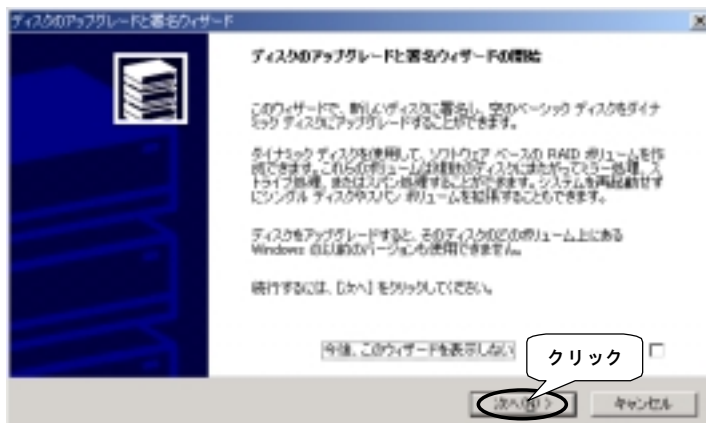
Windows 2000でハードディスクを使うには、ディスクに署名を行う必要があります。

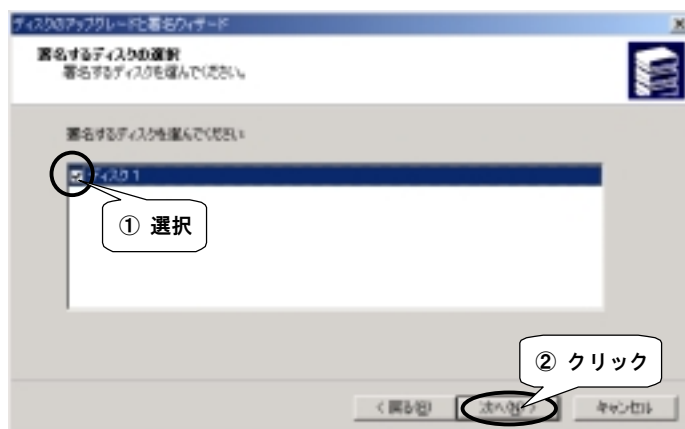
1 「コンピュータの管理」を起動します。

［マイコンピュータ］→［コントロールパネル］→［管理ツール］→［コンピュータの管理］を起動します。

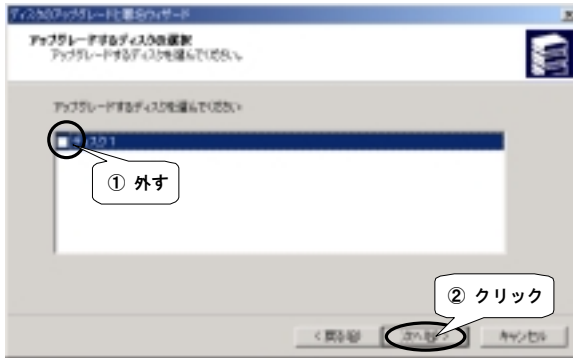
2 ［ディスクの管理］をクリックします。

［記憶域］→［ディスクの管理］をクリックします。

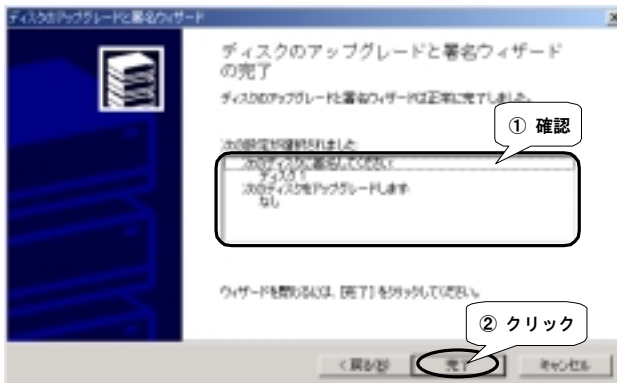
⇒「ディスクのアップグレードと署名ウィザード」が表示されます。

3 ［次へ］ボタンをクリックします。

4 署名するディスクを選び、［次へ］ボタンをクリックします。

署名を行わないと、ハードディスクは使えません。
必ず署名を行ってください。

5 チェックを付けずに、［次へ］ボタンをクリックします。

<u>全てのチェックを外し、</u>［次へ］ボタンをクリックします。

**ここでチェックを付けたディスクは、「ダイナミックディスク」となります。「ダイナミックディスク」は、Windows 98/95などで使うことができません。「ダイナミックディスク」についての詳細は、Windows 2000の取扱説明書、またはオンラインヘルプをご覧ください。
この手順で作成するディスクは「ベーシックディスク」と呼ばれます。**

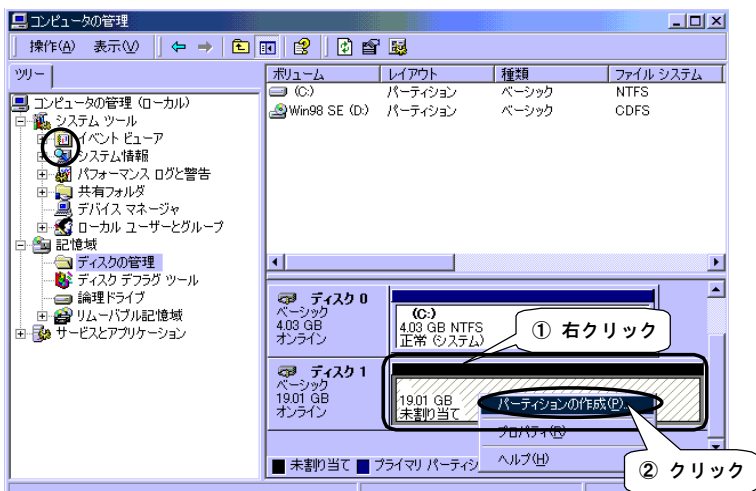
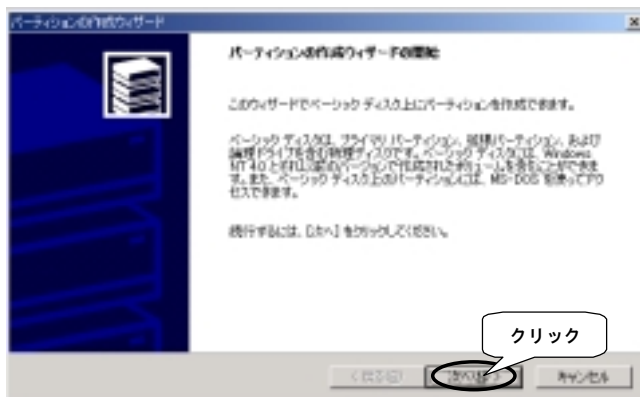
6 設定を確認して、［完了］ボタンをクリックします。

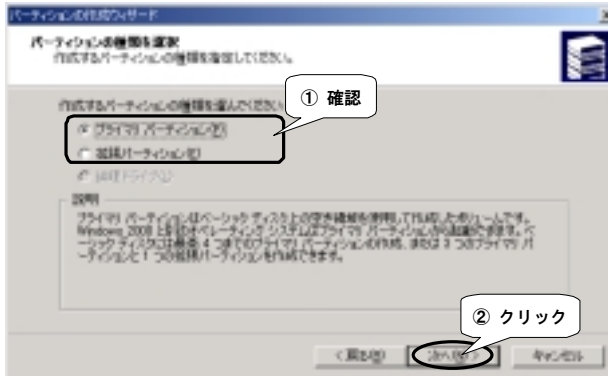
⇒署名が行われます。

次ページの【パーティションの作成とフォーマット】にお進みください。

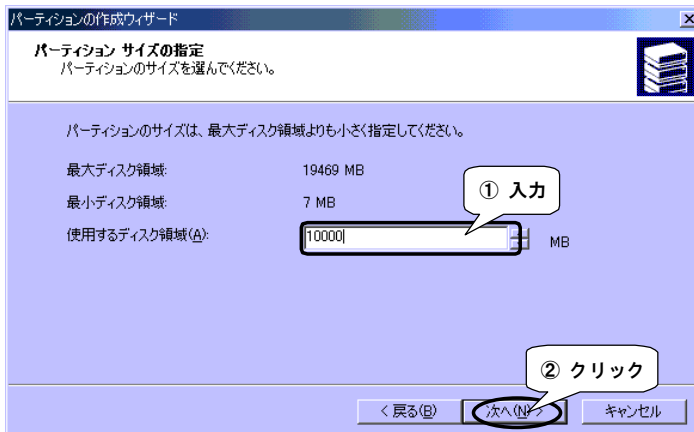
パーティションの作成とフォーマット

1 「パーティションの作成ウィザード」を起動します。

フォーマットしたいハードディスクの未割り当ての領域を右クリックし、表示された［パーティションの作成］をクリックします。

⇒「パーティションの作成ウィザード」が起動します。

2 ［次へ］ボタンをクリックします。

3 作成する種類を選び、［次へ］ボタンをクリックします。

作成するパーティションの種類を選びます。
パーティションについては下に表示されている説明をご覧ください。
その後、［次へ］ボタンをクリックします。

4 使う容量を入力し、［次へ］ボタンをクリックします。

この後、プライマリパーティションを作成した場合は手順**5**へ、
拡張パーティションを作成した場合は手順**9**へ進みます。

手順 7で設定したいファイルシステムに合った容量を設定してください。
【●OS毎の１パーティションの最大容量】(48ページ)をご覧ください。

5 ドライブ文字を選び、［次へ］ボタンをクリックします。

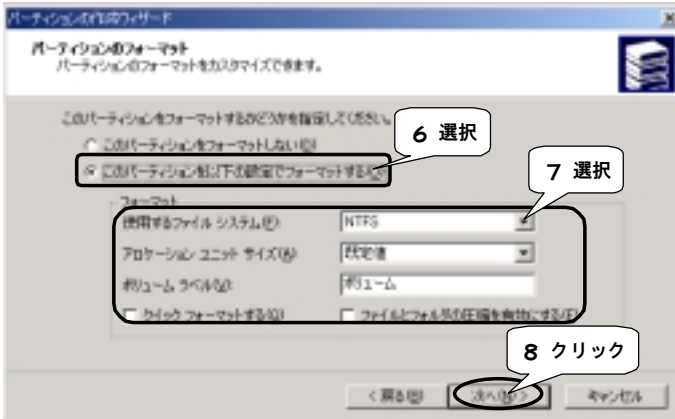
［ドライブ文字の割り当て］を選択します。
その後、［次へ］ボタンをクリックします。

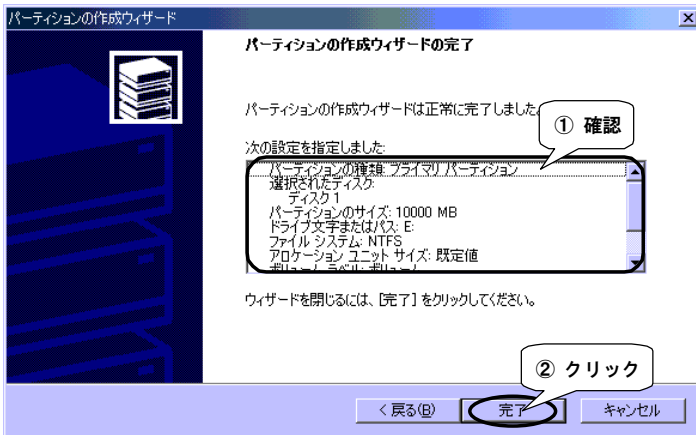
［ドライブパスをサポートする空のフォルダにこのボリュームをマウントする］を選択することもできます。
［ドライブパスをサポートする空のフォルダにこのボリュームをマウントする］についての詳細は、Windows 2000の取扱説明書もしくはオンラインヘルプをご覧ください。

6 フォーマットするように指定します。

［このパーティションを以下の設定でフォーマットする］を選択します。

7 ファイルシステムの設定を行います。

フォーマットの中の「使用するファイルシステム」項目を設定します。
項目の詳細については、Windows 2000の取扱説明書もしくはオンラインヘルプをご覧ください。

8 ［次へ］ボタンをクリックします。

9 設定内容を確認して、［完了］ボタンをクリックします。

プライマリパーティションを作成した場合は、お使いいただけます。

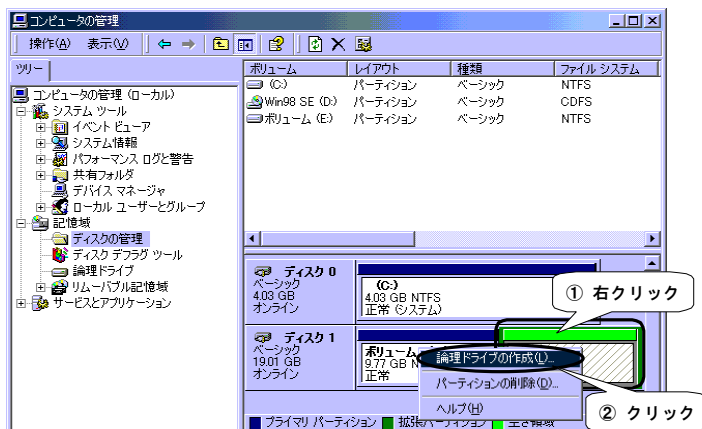
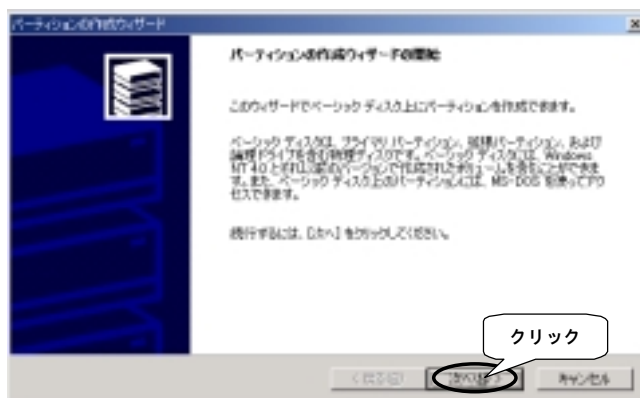
⇒「マイコンピュータ」に本製品のアイコンが表示されます。

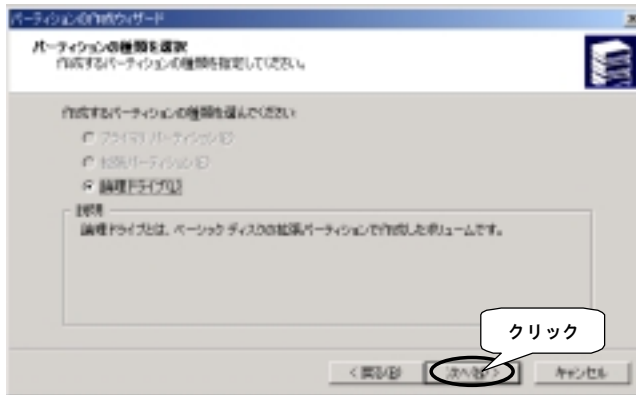
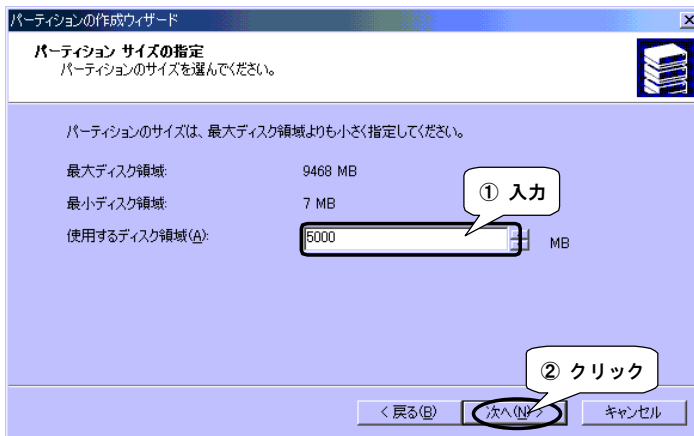
今後は、本製品のアイコンを右クリックし、表示された［フォーマット］を選択するだけでフォーマットすることができます。

拡張パーティションを作成した場合は、次のページの【論理ドライブの作成】を行ってください。

論理ドライブの作成

1 「空き領域」に論理ドライブを作成します。

論理ドライブを作成する拡張領域の「空き領域」を右クリックし、表示された［論理ドライブの作成］をクリックします。

2 ［次へ］ボタンをクリックします。

3 ［次へ］ボタンをクリックします。

このとき、［論理ドライブ］が選択されていることを確認してください。

4 使う容量を入力し、［次へ］ボタンをクリックします。

手順 7で設定したいファイルシステムに合った容量を設定してください。【●OS毎の１パーティションの最大容量】(48ページ)をご覧ください。

5 ドライブ文字を選び、［次へ］ボタンをクリックします。

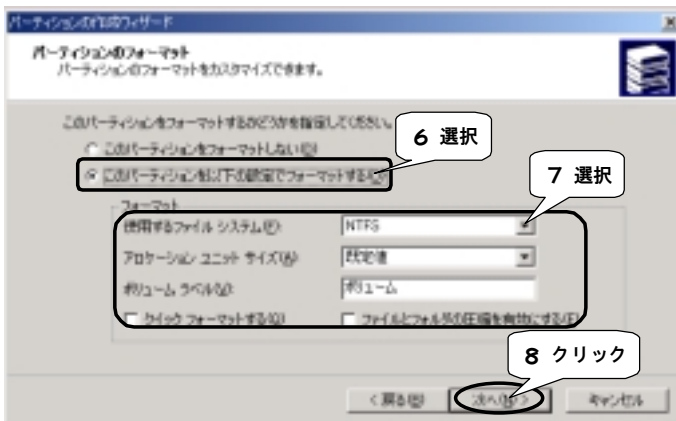
［ドライブ文字の割り当て］を選択します。
その後、［次へ］ボタンをクリックします。

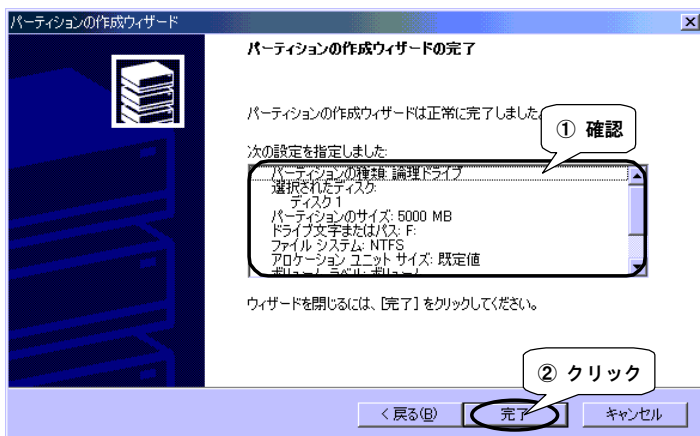
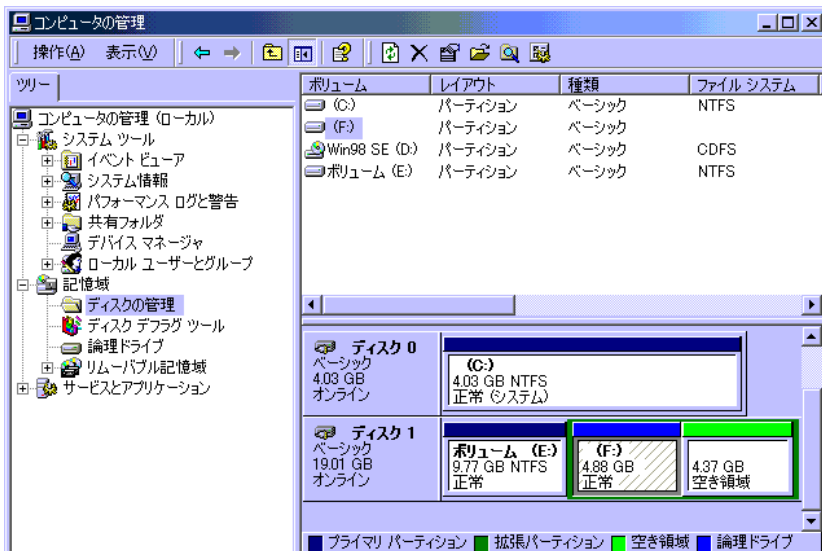
［ドライブパスをサポートする空のフォルダにこのボリュームをマウントする］を選択することもできます。
［ドライブパスをサポートする空のフォルダにこのボリュームをマウントする］についての詳細は、Windows 2000の取扱説明書もしくはオンラインヘルプをご覧ください。

6 フォーマットするように指定します。

［このパーティションを以下の設定でフォーマットする］を選択します。

7 ファイルシステムの設定を行います。

フォーマットの中の「使用するファイルシステム」項目を設定します。
項目の詳細については、Windows 2000の取扱説明書もしくはオンラインヘルプをご覧ください。

8 ［次へ］ボタンをクリックします。

9　設定内容を確認して［完了］ボタンをクリックします。

以上で論理ドライブの作成は終了です。
以下の例のように作成されます。
（空き領域については、同様に論理ドライブを作成します。）

Windows NTでのフォーマット

「管理ツール」グループ内の「ディスクアドミニストレータ」を使ってください。（使用方法は、以下およびWindows NTの取扱説明書を参照）

アドミニストレータ権限のあるユーザーアカウントでログインして作業する必要があります。

【1パーティションの最大容量に関する注意】

1)Windows NTでは、FAT使用時の1パーティションの最大容量は4,095Mバイトですが、1パーティションの容量が2,047Mバイト以上になると他のOSからアクセスできない場合があります。

2)Windows NTをインストールできるパーティションの可能最大容量は4,095Mバイトです。

「ディスクアドミニストレータ」の使用方法

Windows NT 4.0・・・　［スタート］→［プログラム］から［管理ツール］を開きます。

Windows NT 3.51　・・　［プログラムマネージャ］から［管理ツール］を開きます。

その後、以下の手順に従ってフォーマットを行ってください。

1 ディスクアドミニストレータを起動します。

［管理ツール］→［ディスクアドミニストレータ］を選択してください。

2 「･･･に署名がありません。」と表示される場合があります。

「ディスクｘに署名がありません。」と確認ウィンドウが表示された場合、[はい]をクリックしてください。

3 作成するパーティションサイズを設定します。

フォーマットしたいハードディスクの空き領域をクリックします。

［パーティション］→［作成］を選択し、作成するパーティションサイズを設定してください。

4 変更結果を反映します。

設定したパーティションは、［未フォーマット(未反映)］と表示されています。［パーティション］→［直ちに変更を反映］を選択し、変更結果を保存してください。
⇒［未フォーマット(未反映)］から［不明］に変わります。

5 本製品をフォーマットします。

［不明］のパーティションを選択し、［ツール］→［フォーマット］を選択してください。［ファイルシステム］と［ラベル］を設定し、［OK］をクリックしてください。
確認画面が表示されるので、［はい］をクリックしてください。

以上でフォーマットは終了です。
フォーマット終了後は、そのままお使いになれます。

【PC/AT互換機用Windows NTで領域を確保した場合の注意】

1)Windows NTで確保した8,032Mバイト以降の領域を含むドライブは、Windows Me/98/95ではMOディスクドライブやCD-ROMドライブの後に来る場合があります。
後にしたくない場合は、Windows Me/98/95のFDISKを使って領域確保を行ってください。（作成方法は、【Windows Me/98/95のFDISKでフォーマットする】(82ページ)参照）

2)Windows NTの8,032Mバイト以降の領域を含むパーティションを、Windows Me/98/95のMS-DOSモードやMS-DOSで共用した場合、誤動作する場合があります。
共有する場合は、Windows Me/98/95やMS-DOSのFDISKを使って領域確保を行ってください。（作成方法は、【Windows Me/98/95のFDISKでフォーマットする】(82ページ)参照）

Windows 3.1およびMS-DOS(PC DOS)での フォーマット（DOS/Vマシンのみ）

この項ではWindows 3.1やMS-DOS(PC DOS)でお使いの場合の初期化作業を説明します。（所要時間は約1時間30分～4時間です。）

1 本製品を接続します。

【取り付けよう】(15ページ)を参照してください。

2 パソコンの電源を入れます。

・Windows 3.1などが起動すれば、終了します。
・画面がDOSプロンプト状態であることを確認します。

3 FDISKコマンドで本製品の領域確保をします。

FDISKの使用方法については、【MS-DOS(PC DOS)のFDISKでの領域確保】(101ページ)も参考にしてください。

新しく作られた論理ドライブ名をメモしておいてください。

4 パソコンを再起動します。

5 FORMATコマンドで本製品のフォーマットをします。

・C:¥>format d: ↵

（d: ←メモしておいた新しいドライブ名）

・フォーマット状況が「%」で表示されます。

※フォーマット中は電源を切らないでください。

本製品を複数のパーティションに分けて使う場合は、同様の手順で、さらに追加されている本製品をフォーマットしてください。

フォーマットが終われば、本製品をお使いいただけます。

ハードディスク増設後、他の機器のドライブ名が変更される場合がありますので、各装置のドライブ名を再度ご確認ください。（50ページ）

付録

困った時には	本製品を使用中に、異常があったときにご覧ください。(76ページ)
Windows Me/98/95のFDISKでフォーマットする	ドライブ名を変えずにフォーマットしたい場合などに行います。(82ページ)
Windows Me/98/95で「拡張MS-DOS領域」を確認する	Windows Me/98/95上で「拡張MS-DOS領域」があるかどうかを確認する方法を説明します。(99ページ)
MS-DOS(PC DOS)のFDISKでの領域確保	MS-DOS(PC DOS)でFDISKを使う方法について説明します。(101ページ)
オプション品について	本製品の別売りオプション品について説明しています。(103ページ)

困った時には

［マイコンピュータ］に本製品の［ハードディスク］アイコンが表示されない

原因1 正しく取り付けられていない。

対処 【取り付けよう】(15ページ)を参照して、電源ケーブル,IDEフラットケーブルがしっかり接続されているか確認してください。

原因2 ジャンパの設定（マスタ／スレーブ／ケーブルセレクトの設定）が正しく行われていない場合があります。

対処 本製品の設定は、別紙【ハードウェア仕様について】を参照して、ジャンパの確認、変更を行ってください。
本製品をパソコンのハードディスクと同じケーブルに接続する場合で、
パソコンのハードディスクが「シングル」設定になっている場合には、
「マスタ」設定に変更してください。
また、富士通FMVシリーズの一部の機種で「ケーブルセレクト」設定の必要な場合は、「ケーブルセレクト」設定が必要です。（各設定については【本製品および内蔵ハードディスクの設定】(21ページ)を参照）

原因3 領域確保されていない。

対処 領域確保後、再起動してください。
（【増設用ハードディスクとして使う】(43ページ)を参照）

原因4 FDISKコマンドでパーティション設定（領域確保）した場合で、ハードディスクの容量を複数の領域に分割する場合の設定が正しくされていない。

対処 【Windows Me/98/95のFDISKでフォーマットする】(82ページ)を参照し、設定を行ってください。

13Gバイト以上の本製品で、8,033MBまでしか確保できない

原因 パソコンが8.4Gバイトを超えるハードディスクに対応していない。

対処 パソコンメーカーに対応しているかご確認ください。

本製品のプロパティでオプションの「DMA」の項目が表示されない

原因1 UIDE-66,UIDE-DV,UIDE-DVMに本製品を接続した場合、「DMA」の項目は表示されない。

対処 転送速度を変える際には、UIDE-66,UIDE-DV,UIDE-DVMの取扱説明書にある「BIOSの 設定」をご覧ください。

原因2 Microsoft製以外のハードディスクコントローラドライバが使われている

対処 お使いのパソコンがDMA転送可能かどうかについては、パソコンメーカーにお問い合わせください。

パソコンが起動しない

原因1 以下の作業を行ってみてください。

対処 【取り付けよう】(15ページ)を参照して、電源ケーブル,IDEフラットケーブルがしっかり接続されているか確認してください。

原因2 ジャンパの設定（マスタ／スレーブ／ケーブルセレクトの設定）が正しく行われていない場合があります。

対処 別紙【ハードウェア仕様について】を参照して、ジャンパの確認、変更を行ってください。本製品を同系列に接続する場合で、パソコンのハードディスクが「シングル」設定になっている場合には「マスタ」設定に変更してください。富士通FMVシリーズの一部の機種で「ケーブルセレクト」設定の必要な場合は、「ケーブルセレクト」設定が必要です。（設定については【本製品および内蔵ハードディスクの設定】(21ページ)を参照してください。）

B'sCrew for Windowsにてパーティションの編集を実行したときに、「ドライブスキャン中」と表示されたまま、パソコンが動作しなくなる

原因 パーティションの構成によってはドライブスキャンに数分かかる場合があります。

対処 ハードディスクのアクセスランプが点滅している場合、実際には正常動作しています。ドライブスキャンが終了するまでお待ちください。
この時に、［Ctrl］+［Alt］+［Delete］キーを押し、アプリケーションの状態を表示させると、「応答なし」と表示されますが、問題ありません。

PC98-NXシリーズに本製品を接続したら、パソコンが起動しなくなったり、CD-ROM等が認識されなくなる

原因 PC98-NXシリーズの一部の機種では、パソコンのセカンダリIDEにハードディスクなどのDMA転送可能な機器を取り付けると正常に動作しなくなることがあります。

対処 本製品をパソコンのセカンダリIDEから取り外し、プライマリIDEに取り付けてください。

PC98-NXシリーズで以下の現象となる
①パソコンを起動して、NECのロゴが出たところで止まってしまう。
②本製品がパソコンに正しく認識されない。

対処 以下の作業を行ってください。

《必要な作業》

上記の現象が起こった場合は、以下の作業を行ってください。

※ 以下の作業は、「プライマリマスタ」に標準内蔵ハードディスク、「プライマリスレーブ」に本製品を取り付けている場合の例です。

1 パソコンの電源を切ります。

2 本製品からIDEケーブルを取り外します。

3 パソコンの電源を入れます。

4 「NEC」のロゴが表示されたら［F2］キーを押します。

⇒画面下にメッセージが表示されます。

5 ［→］キーを押します。

⇒本体BIOS画面が表示されます。

6 「プライマリスレーブ」を選択し、［Enter］キーを押します。

7 「タイプ」を選択し、「ユーザ」に変更します。

スペースキーを数回押して「ユーザ」に変更します。

8 「LBAモード制御」を選択し、「使用する」に変更します。

スペースキーを１度押し、「使用する」に変更します。

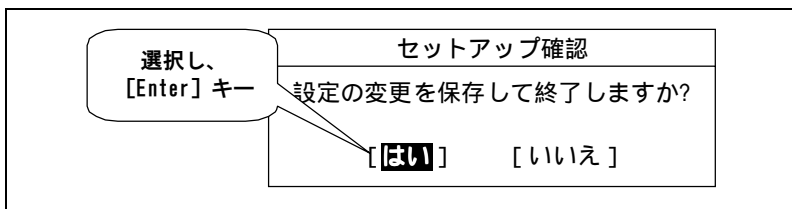
選択し、スペースキーを押して「使用する」に変更

マルチセクタ転送:[使用しない]
LBAモード制御: [使用しない]
32ビットI/O: [使用しない]

9 ［ESC］キーを２度押します。

⇒終了方法の選択画面になります。

10 「変更を保存して終了する」を選択し、［Enter］キーを押します。

11 ［はい］を選択し、［Enter］キーを押します。

⇒画面の表示が消え、何も表示されなくなります。

12 すぐにパソコンの電源を切ります。

電源ボタンを押すか、電源ボタンを５秒間押したままにします。

13 本製品にIDEケーブルを取り付けます。

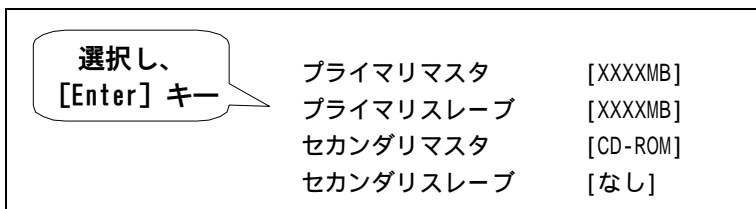
14 パソコンの電源を入れます。

15 NECのロゴが表示されたら［F2］キーを押します。

⇒画面下にメッセージが表示されます。

16 ［→］キーを押します。

⇒本体BIOS画面が表示されます。

17 「プライマリスレーブ」を選択し、［Enter］キーを押します。

18 「タイプ」を選択し、「自動」に変更します。

スペースキーを数回押して「自動」に変更します。

19 ［ESC］キーを２度押します。

⇒終了方法の選択画面になります。

20 「変更を保存して終了する」を選択し、［Enter］キーを押します。

21 ［はい］を選択し、［Enter］キーを押します。

⇒画面の表示が消え、何も表示されなくなります。

作業は完了しました。

この後、【取り付け後に設定すること】(32ページ)にお進みください。

Windows Me/98/95のFDISKでフォーマットする

● 本手順はOSにより、作業が少し異なります。

・Windows Meの場合･････････････････････手順 *1* から始めてください。

・Windows 98/95の場合･･････････････････手順 *5* から始めてください。

Windows Meの起動ディスクを起動する

Windows Meのみ本作業をしてください

Windows 98/95はこの作業をする必要がありません。手順 *5* にお進みください。

1 Windows Meの起動ディスクを挿入し、パソコンを再起動します。

Windows Meの起動ディスクについて

【●Windows Meの起動ディスクの作り方】(36ページ)をご覧ください。

2 「3」と入力し、↵キーを押します。

【上記手順で起動してください。】

この後でFDISKコマンドを使いますが、FDISKコマンドは必ず上記の手順で起動した後で入力してください。

Windowsの「MS-DOSﾌﾟﾛﾝﾌﾟﾄ」上ではご利用いただけません。

（Windowsの「MS-DOSﾌﾟﾛﾝﾌﾟﾄ」上でFDISKコマンドをご利用されるとパーティションが消える等の誤動作の原因となります。）

3 **FDISKを起動します。**

FDISK と入力後、↵キーを押します。

```
A:¥>FDISK
```

4 手順 *8* にお進みください。

Windows 98/95の｢Command Prompt Only｣を起動する

5 Windows 98/95を「Command Prompt Only」で起動します。

Windows 98：[Ctrl]キーを押したままパソコンを起動します。
メニューから、「Command prompt only」を選択します。
（メニューが表示されない場合は、パソコン起動中に[Ctrl]キーを押したり放したりを繰り返してみてください。）

Windows 95：パソコンを起動し、「Starting Windows 95」と表示されたら、
［F8］キーを押し、すぐに離します。
メニューから｢Command prompt only｣を選択します。

次にFDISKコマンドで本製品のパーティションの設定（領域確保）を行います。

80Gバイト以上の本製品をお使いの方へ

【FDISKのアップデート方法】(7ページ)をご覧になり、FDISKをアップデートしてください。

【上記手順で起動してください。】

この後でFDISKコマンドを使いますが、FDISKコマンドは必ず上記の手順でWindowsを起動した後で入力してください。
Windowsの「MS-DOSﾌﾟﾛﾝﾌﾟﾄ」上ではご利用いただけません。
（Windowsの「MS-DOSﾌﾟﾛﾝﾌﾟﾄ」上でFDISKコマンドをご利用されるとパーティションが消える等の誤動作の原因となります。）

FDISKを起動する

6 FDISKを起動します。

FDISK と入力後、↵キーを押します。

```
C:¥>FDISK_
```

7 以下の画面が表示されます。

Windows 95 4.00.950/4.00.950aのバージョンをお使いの場合は表示されません。読み飛ばして次ページの手順8へお進みください。

（【Windows 95バージョン番号の確認方法】（49ページ）参照）

```
512 MB以上のディスクがあります. このバージョンのWindowsでは, 大容量のディスク
のサポートが強化され, ディスク領域を有効に使えるようになりました. 2 GB以上の
ドライブを1つのドライブとしてフォーマットできます.


重要 : 大容量ディスクのサポートを使用可能にして, このディスクに新しいドライブ
を作成した場合, ほかのオペレーティング システムを使ってこの新しいドライブに
アクセスすることはできません (Windows 95とWindows NTの特定のバージョン,
以前のバージョンのWindowsとMS-DOSを含む). また, FAT32ファイルシステム
用に設計されていないディスクユーティリティは, 正常に動作しません.
このディスクでほかのオペレーティングシステムや以前のディスクユーティリティ
にアクセスする必要がある場合, 大容量ドライブのサポートは使用しないでください.

大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか (Y/N)..........? [Y]
```

[Y]キーまたは[N]キーを入力後、↵キーを押す

［Y］を入力する場合

例1）本製品の全容量を1つのパーティションで使う場合

例2）2047Mバイト以上のパーティションを作成したい場合

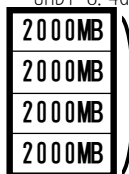
UHDI-8.4GHでの作成例

8000MB　1つのパーティションのみで使用

［Y］を入力し、パーティションを作成すると、Windows 95 4.00.950/4.00.950a、Windows NT、MS-DOSなどのOSからアクセスできなくなります。

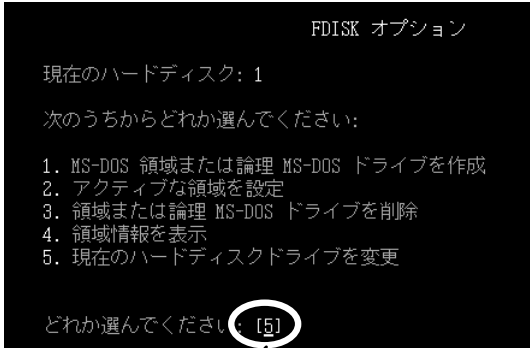
［N］を入力する場合

例）Windows 95 4.00.950/4.00.950a、Windows NT、MS-DOSなどのOSと共用する場合

UHDI-8.4GHでの作成例

2000MB
2000MB
2000MB
2000MB
4つのパーティションで使用

1パーティションの最大容量は、2,047Mバイトとなります。
本製品を複数のパーティションに分割して使うこととなります。

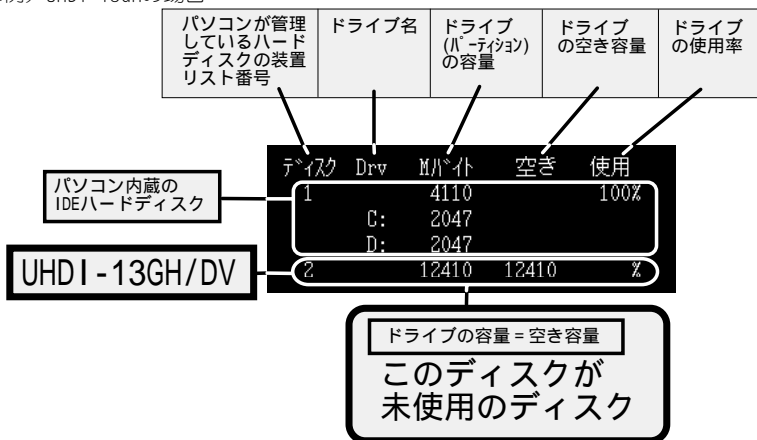
本製品を選択する

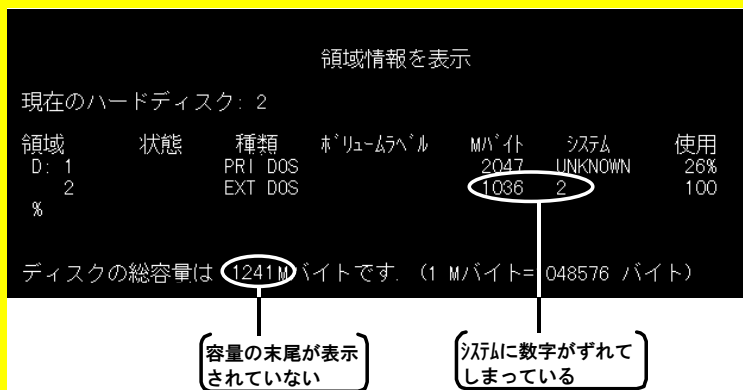
8 **「5」（現在のハードディスクを変更）を選択します。**

【「5」（現在のハードディスクドライブを変更）の表示がない場合】

本製品が正しく接続されていない可能性があります。
[ESC]キーでFDISKを終了し、再度、ケーブルおよびジャンパピンを確認してください。
（【取り付けよう】（15ページ）参照）

9 以下の画面が表示されます。

※ 表示される容量はお使いのパソコンおよび接続している本製品によって異なります。

表示例）UHDI-13GHの場合

【Windows 95 4.00.950/4.00.950aのバージョンをお使いの場合】

Windows 95 4.00.950/4.00.950aのバージョンをお使いの場合で、13Gバイト以上の本製品を使っていた場合、全容量の表示が、全容量の上4桁しか表示されませんが、設定には問題ありません。（表示だけの問題です。）

10 「未使用のディスクの番号」を選択します。

(1 Mバイト=1048576 バイト)
ハードディスクドライブの番号を入力してください (1-2).....[2]

未使用のディスク(上の画面では[2])を選択後、↵キーを押す

【未使用のディスクがない場合】

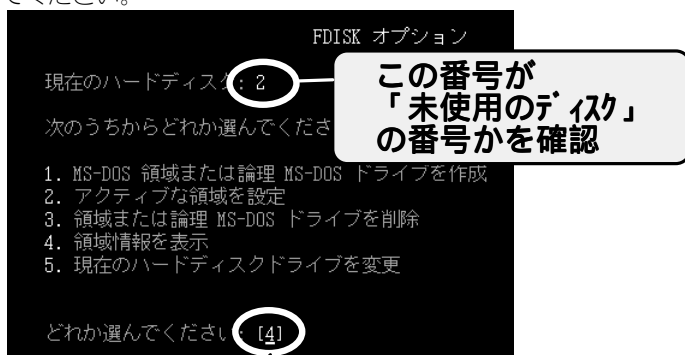
本製品が正しく接続されていない可能性があります。

[ESC]キーでFDISKを終了し、再度、ケーブル及びジャンパピンを確認してください。

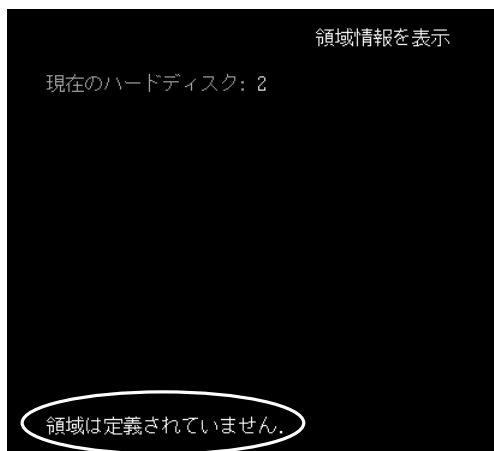
(【本製品を取り付ける前の基礎知識】(19ページ)参照)

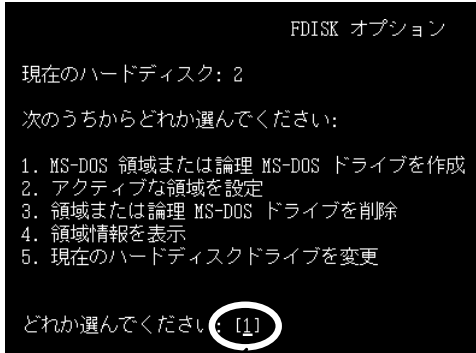
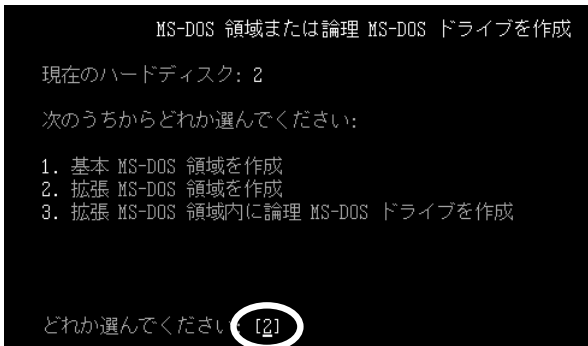
選択したディスクが本製品かを確認する

11 手順10で選択したディスクが本製品かを確認します。

「現在のハードディスク」の番号が選択したディスクとなっているか確認してください。

12 「4」(領域情報を表示)を選択します。

〝領域は定義されていません〟

とメッセージが表示される事を確認し、［ESC］キーを押します。

[拡張MS-DOS領域]を作成する

13 「1」(MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成)を選択します。

14 以下の画面が表示されます。
ここでは、「2」（[拡張MS-DOS領域を作成]）を選択します。

15 以下の画面が表示されます。

「拡張MS-DOS領域」の全容量のサイズを指定します。

通常指定（表示）されているサイズのまま↵キーを押してください。

例）UHDI-13GHの場合

【ここで指定するサイズについて】

ここでの指定は、「拡張MS-DOS領域」の全容量のサイズ（本製品で使うサイズ）の指定です。

全容量のサイズ指定後、この後の手順で「拡張MS-DOS領域」内にいくつかの「論理ドライブ」を作成します。（92ページ参照）

また、「拡張MS-DOS領域」では、「拡張MS-DOS領域」内に論理ドライブを作成しないと、ドライブとして認識されません。

「領域に割り当て可能な最大領域」（拡張MS-DOS領域用の空き容量）が1,000Mバイトあるのに700Mバイトしか指定しなかった場合、残りの300Mバイトは使えなくなります。

16 **以下のように領域確保完了のメッセージが表示されます。**

17 **確認後、［ESC］キーを押します。**

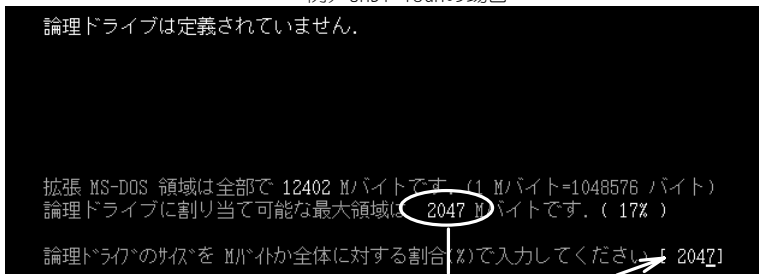
[論理ドライブ]を作成する

18 **以下の画面が表示されます。**
「論理ドライブに割り当て可能な最大領域」で表示されている容量以下のサイズを入力し、↵キーを押してください。

例）UHDI-13GHの場合

論理ドライブは定義されていません.

拡張 MS-DOS 領域は全部で 12402 Mバイトです. (1 Mバイト=1048576 バイト)
論理ドライブに割り当て可能な最大領域は 2047 Mバイトです. (17%)

論理ドライブのサイズを Mバイトか全体に対する割合(%)で入力してください [2047]

このサイズ以下を入力後,↵キーを押す

【手順*18*の画面が表示されなかった場合】

［FDISKオプション］画面から上記画面を表示できます。
［FDISKオプション］画面で
「1」（MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成）
「2」（拡張MS-DOS領域内に論理MS-DOSドライブを作成）
を順に選択すれば、手順***18***の画面となります。

【サイズの入力方法】

・サイズを［Mバイト］で指定する場合
指定したいサイズの数字のみを入力してください。
（例：1000Mバイトを指定したい場合は、 **1000** と入力します。）
・サイズを［%］で指定する場合
指定したいパーセンテージに%をつけて入力してください。
（例：30パーセントを指定したい場合は、 **30%** と入力します。）

19 **以下の画面が表示されます。**
新しくドライブが作成されたことを確認してください。

例）UHDI-13GHの場合

```
拡張 MS-DOS 領域内に論理 MS-DOS ドライブを作成

Drv ﾎﾞﾘｭｰﾑﾗﾍﾞﾙ   Mﾊﾞｲﾄ  ｼｽﾃﾑ    使用
E:              2047  UNKNOWN   17%
```

手順18で作成したドライブ

20 **残り容量がある場合は、以下のメッセージが表示されます。**

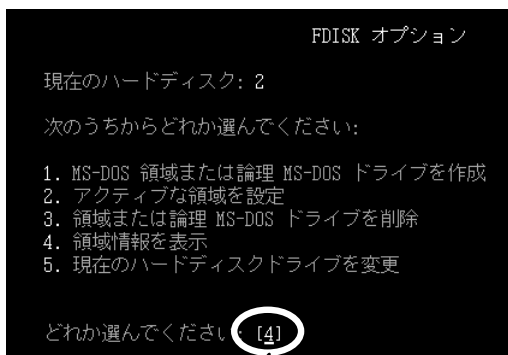
```
拡張 MS-DOS 領域は全部で 12402 Mバイトです.（1 Mバイト=1048576 バイト）
論理ドライブに割り当て可能な最大領域は  2047 Mバイトです.（ 17% ）

論理ﾄﾞﾗｲﾌﾞのｻｲｽﾞを Mﾊﾞｲﾄか全体に対する割合(%)で入力してください.[ 2047]
```

残り容量が無くなるまで、再度「論理ドライブに割り当て可能な最大領域」で表示されている容量以下のサイズを入力し、⏎キーを押してください。

残り容量が無い場合や無くなった場合、以下のメッセージが表示されます。

```
拡張 MS-DOS 領域の使用可能な領域はすべて
論理ドライブに割り当てられています.
```

残り容量がなくなったら、［ESC］キーを押してください。

作成した[論理ドライブ](ﾊﾟｰﾃｨｼｮﾝ)を確認する

21 「4」(領域情報を表示)を選択します。

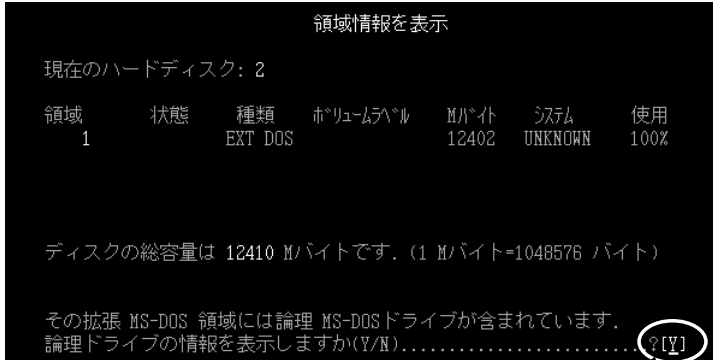
22 **［拡張MS-DOS領域］が作成されていることを確認してください。［Y］キーで論理ドライブも確認できます。**
確認後、［ESC］キーを押してください。［FDISK］オプション画面に戻ります。

領域情報を表示

現在のハードディスク: 2

領域	状態	種類	ﾎﾞﾘｭｰﾑﾗﾍﾞﾙ	Mﾊﾞｲﾄ	ｼｽﾃﾑ	使用
1		EXT DOS		12402	UNKNOWN	100%

ディスクの総容量は 12410 Mバイトです.（1 Mバイト=1048576 バイト）

その拡張 MS-DOS 領域には論理 MS-DOSドライブが含まれています.
論理ドライブの情報を表示しますか(Y/N).........................?[Y]

●全領域を複数のパーティションに分割した例

論理MS-DOSドライブ情報を表示

Drv	ﾎﾞﾘｭｰﾑﾗﾍﾞﾙ	Mﾊﾞｲﾄ	ｼｽﾃﾑ	使用
E:		2047	UNKNOWN	17%
F:		2047	UNKNOWN	17%
G:		2047	UNKNOWN	17%
H:		2047	UNKNOWN	17%
I:		2047	UNKNOWN	17%
J:		2047	UNKNOWN	17%
K:		118	UNKNOWN	1%

●全領域を１つのパーティションにした例

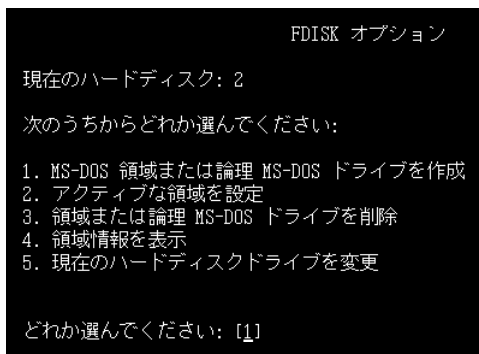
論理MS-DOSドライブ情報を表示

Drv	ﾎﾞﾘｭｰﾑﾗﾍﾞﾙ	Mﾊﾞｲﾄ	ｼｽﾃﾑ	使用
E:		12402	UNKNOWN	100%

※ １つのパーティションにできるのは
手順 *7* で［Y］を選択した場合のみです。

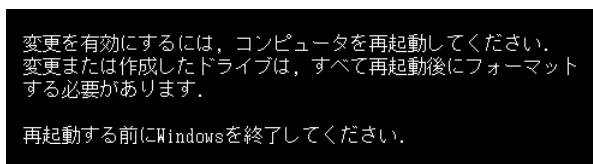
FDISKを終了する

23 再度[ESC]キーでFDISKを終了します。

```
                    FDISK オプション

現在のハードディスク: 2

次のうちからどれか選んでください:

1. MS-DOS 領域または論理 MS-DOS ドライブを作成
2. アクティブな領域を設定
3. 領域または論理 MS-DOS ドライブを削除
4. 領域情報を表示
5. 現在のハードディスクドライブを変更


どれか選んでください: [1]
```

24 以下の画面が表示されます。
再度[ESC]キーを押します。

```
変更を有効にするには, コンピュータを再起動してください.
変更または作成したドライブは, すべて再起動後にフォーマット
する必要があります.

再起動する前にWindowsを終了してください.
```

25 以下の画面が表示されます。

```
C:¥>_
```

以上で領域確保は終了です。

パソコンを再起動する

この後、パソコンを必ず再起動してください。

（［Ctrl］＋［Alt］＋［Del］キーを同時に押して、再起動してください。）
再起動しないと、FDISKで設定した領域をパソコンが認識しません。

再起動後、次ページの【フォーマットを行う】へお進みください。

フォーマットを行う

本製品を使うには、領域確保後、フォーマットを行う必要があります。

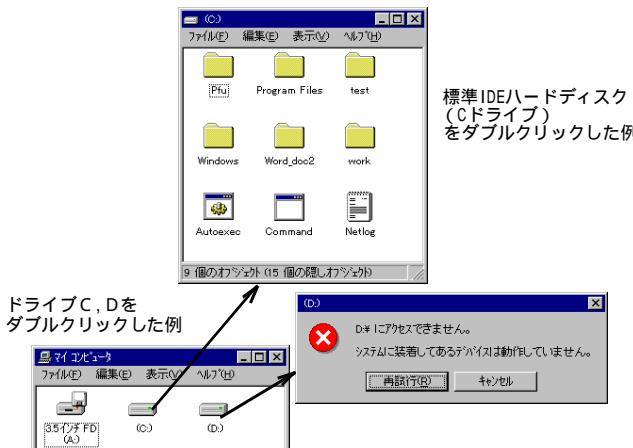
1 ［マイコンピュータ］内にある本製品のアイコンを確認します。

Windows Me/98/95が起動したら、［マイコンピュータ］をダブルクリックして開き、表示されたドライブアイコンの中から、本製品を選択します。

【本製品のドライブの確認方法】

選択したドライブが目的の本製品のディスクかどうかは、ダブルクリックしてみてエラー表示が出ることで確認できます。

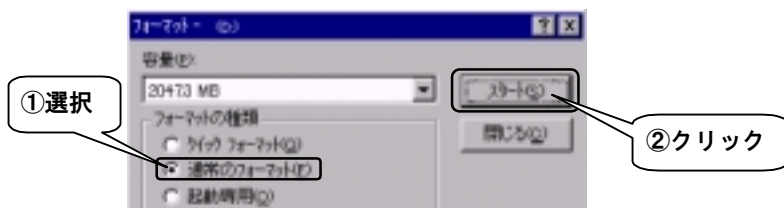
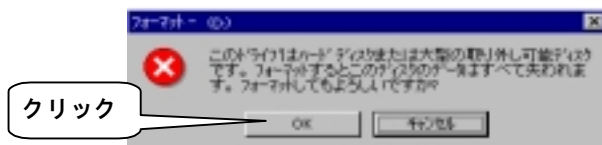
（以下の例では、Dドライブが本製品とわかります。）

確認後は、［キャンセル］ボタンを押してエラー表示を閉じてください。

2

ドライブアイコン（例はDドライブ）を右クリックして［フォーマット］をクリックします。

3

4

クリック

5 **″このディスクをフォーマットしました.......確認してください.″と表示されたら、フォーマット完了です。**

画面に表示されるヘルプに従ってスキャンディスクを実行してください。

6 **他に追加されている本製品（例の場合は、E,F,Gドライブ）があれば、再度手順1に戻り、同じ作業を行ってください。**

Windows Me/98/95を再起動してください。
以上でフォーマットは終了です。本製品をお使いください。

フォーマット終了後、他の機器のドライブ名が変更される場合がありますので、各装置のドライブ名を再度ご確認ください。

Windows Me/98/95で「拡張MS-DOS領域」を確認する

ここでは、Windows Me/98/95上でパソコン標準の内蔵ハードディスクに、「拡張MS-DOS領域」（の論理ドライブ）があるかを確認します。

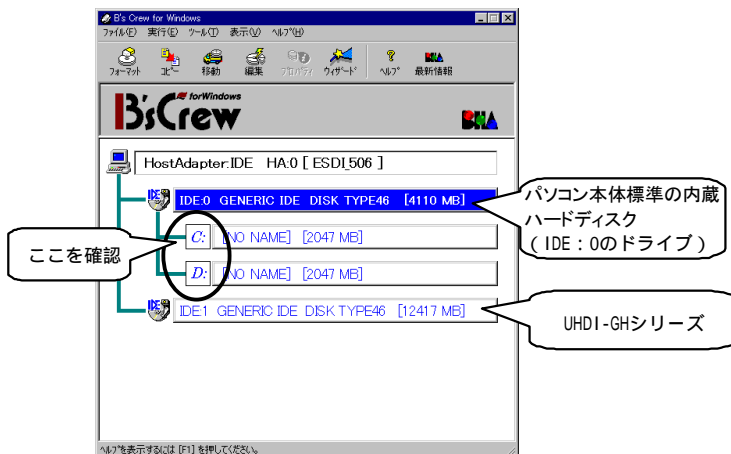
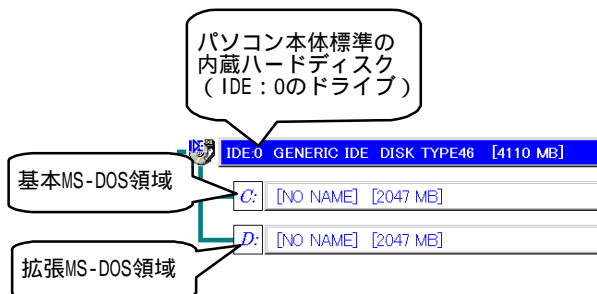
1 Windows Me/98/95を起動します。

B'sCrew for Windowsがインストールされていなければ、インストールします。（『B'sCrew for Windowsユーザーズマニュアル』参照）

2 B'sCrew for Windowsを起動します。

［スタート］→［プログラム］→［B'sCrew for Windows］→［B'sCrew for Windows］をクリックすると起動します。

3 ウィザードが表示されていたら［閉じる］をクリックし、ウィザードを閉じます。

以下で「拡張MS-DOS領域」があるかを確認してください。

上記画面でパソコン標準のハードディスクのドライブ（IDE:0）を確認してください。

上記画面のように、パソコン標準の内蔵ハードディスク内に２つ以上のドライブ名（上記画面では Ｃ： と Ｄ： の2つ）がある場合には、「拡張MS-DOS領域」の論理ドライブがあることになります。１つしか無い場合（Ｃ： しか無い場合）は、「拡張MS-DOS領域」の論理ドライブはありません。

参考：上記画面では、C:ドライブが「基本MS-DOS領域」
　　　D:ドライブが「拡張MS-DOS領域」の論理ドライブ

MS-DOS（PC DOS）のFDISKでの領域確保

ここでは、MS-DOS（PC DOS）のFDISKでのフォーマット方法について説明します。（所要時間は約1時間30分～4時間です。）

FDISKコマンドで本製品のパーティションの設定（領域確保）を行います。

ここではMS-DOSでの手順を説明します。PC DOSの場合は、項目名や項目番号が異なります。

1 **FDISKを起動します。**

2 **「5」（現在のハードディスクを変更）を選択します。**

> **【「5」（現在のハードディスクドライブを変更）の表示がない場合】**
> 本製品が正しく接続されていない可能性があります。
> 再度、ケーブル及びジャンパピンを確認してください。
> （【取り付けよう】（15ページ）参照）

3 **本製品（「未使用のディスクの番号」）を選択します。**

> **【未使用のドライブがない場合】**
> 本製品が正しく接続されていない可能性があります。
> 再度、ケーブル及びジャンパピンを確認してください。
> （【取り付けよう】（15ページ）参照）

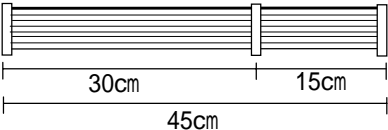
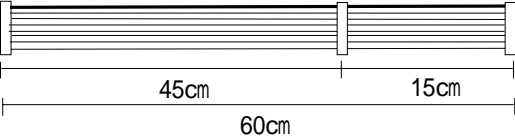
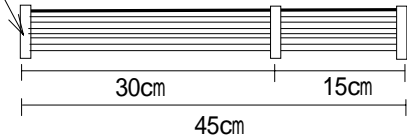
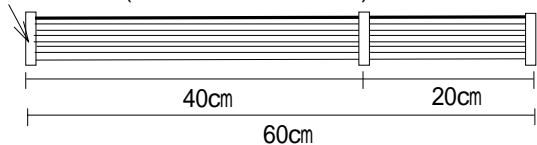
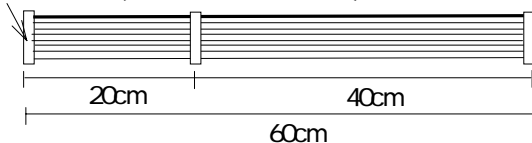
4 **「4」（領域情報を表示）を選択します。**

″区画がありません″

と、表示される事を確認し、［ESC］キーを押してください。

【内蔵ハードディスクに「拡張MS-DOS領域」がある場合の注意】

内蔵ハードディスクに「拡張MS-DOS領域」がある場合に、本製品に「基本MS-DOS領域」を作成するとドライブ番号が変わります。
(【フォーマット後のドライブ名について】(50ページ)参照)
ドライブ番号を変更したくない場合は、「基本MS-DOS領域」を作成しないで、「拡張MS-DOS領域」のみを作成してください。
(作業方法については、【Windows Me/98/95のFDISKでフォーマットする】の手順9(82ページ)以降を参照してください。)

5 「1」(MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成)を選択します。

6 「1」(基本MS-DOS領域を作成)を選択します。

画面のメッセージに従って基本MS-DOS領域を作成してください。

7 [ESC] キーを押して、FDISKオプションメニューに戻ります。

この後[拡張MS-DOS領域]を作成し、フォーマットを行います。
手順については【Windows Me/98/95のFDISKでフォーマットする】の手順9(82ページ)以降を参照してください。

オプション品について

型番	長さ	タイプ
FL-140※1	45cm	Ultra ATA/33対応IDEフラットケーブル 30cm 15cm 45cm
FL-140-L※1	60cm	Ultra ATA/33対応IDEフラットケーブル 45cm 15cm 60cm
FL-140H※2	45cm	Ultra ATA/100/66対応IDEフラットケーブル 青いコネクタ(パソコン本体接続側) 30cm 15cm 45cm
FL-140H-L※2	60cm	Ultra ATA/100/66対応IDEフラットケーブル 青いコネクタ(パソコン本体接続側) 40cm 20cm 60cm
FL-140H-L2※2	60cm	Ultra ATA/100/66対応IDEフラットケーブル 青いコネクタ(パソコン本体接続側) 20cm 40cm 60cm

※1 Ultra ATA/100/66に対応したパソコン・インターフェイスボードには非対応。
※2 Ultra ATA/33,その他転送方式に対応した機器やパソコンおよびインターフェイスボードにもお使いいただけます。

サポートセンターへのお問い合わせ

本製品に関するお問い合わせ

■お知らせいただく事項

1. お客様の住所・氏名・郵便番号・連絡先の電話番号及びFAX番号
2. ご使用の弊社製品名。
3. ご使用のパソコン本体と周辺機器の型番。
4. ご使用のOSとアプリケーションの名称、バージョン及びメーカー名。
5. 現在の状態(起こったタイミング、本製品や画面、メッセージなどについて)。

■オンライン

インターネット　　http://www.iodata.co.jp/support/

■郵便

住所　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器サポートセンター
「UHDI-GHシリーズ」係　宛

■電話・FAX

電話番号	金沢　076-260-3367　東京　03-3254-0340
電話受け付け時間	9:30～19:00　月～金曜日(祝祭日を除く)
FAX番号	金沢　076-260-3360　東京　03-3254-9055

本製品に関するお問い合わせはサポートセンターのみで行っています。予めご了承ください。

B'sCrew for Windowsに関するお問い合わせ

B'sCrew for Windowsに関するお問い合わせ

B'sCrew for Windowsに関しては、
ビー・エイチ・エー社までお問い合わせください。

●お問い合わせ先
株式会社ビー･エイチ･エー　サポートセンター

TEL　06-4861-8234
FAX　06-6378-3336

受付時間：月～金曜日　10:00～17:00
（夏期･年末年始特定休業日、祝祭日を除く）

B'sCrew for Windowsのバージョンアップ

ビー・エイチ・エー社製 「B'sCrew for Windows」のバージョンアップサービスは弊社では行っておりません。

バージョンアップをご希望される場合は添付の「ビー・エイチ・エー社　ユーザー登録ハガキ」にてユーザー登録を行ってください。

また、㈱ビー・エイチ・エー社のホームページでもバージョンアップができます。

㈱ビー・エイチ・エー社のホームページ
http://www.bha.co.jp/

保証について

◎保証期間

・保証期間は、お買い上げの日より１年間です。保証期間を過ぎたものや、保証書に販売店印とお買い上げ日の記述のないものは、有償修理となります。お送りいただいた製品を検査後、有償となる場合のみ往復ハガキにて修理金額をご案内いたします。修理するか否かを送られてきた往復ハガキにご記入の上、ご返送ください。
また、修理を受ける場合には保証書が必要になりますので、大切に保管してください。

・弊社が販売中止を決定してから、一定期間が過ぎた製品は、修理ができなくなる場合があります。
詳細は、ハードウェア保証書をご覧ください。

◎保証範囲

次のような場合は、保証の責任を負いかねます。
予めご了承ください。

・本製品の使用によって生じた、データの消失および破損。
・本製品の使用によって生じた、いかなる結果やその他の異常。
・弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障。

修理について

弊社製品の修理につきましては、以下の事項をご確認の上、販売店へご依頼頂くか、または下記修理品送付先までお送りくださいます様、お願い致します。

● 原則として修理品は弊社への持ち込みが前提です。送付される場合は、発送時の費用はお客様負担、修理後の返送費用は弊社負担とさせていただきます。
また、修理品のデータに関しましては保証いたしかねます。

● 修理品にはご使用の環境や現在の状態（『サポートセンターへのお問い合わせ』の「お知らせいただく事項」）をお書き添えください。

● 保証期間中は無償で修理いたします。ただし、次の場合は有償となります。
◇保証書がない場合
◇保証書の所定事項が未記入の場合
◇電源ONで挿入、抜去、逆挿入など誤った操作方法や、お買い上げ後の輸送、落下、取り付け場所の移設による破損、故障の場合
◇落雷などの事故による破損の場合
◇本製品を改造した場合

● 保証期間後は有償で修理いたします。
製品によっては主要部品がユニット化（一体化）されている場合があります。これらの製品で故障が主要部品におよんでいた場合、各ユニットの交換を実費で行います。

● 修理品送付先

送付先　〒920-8513 石川県金沢市桜田町2丁目84番地
アイ・オー・データ第2ビル
株式会社アイ・オー・データ機器　修理係　宛

※修理品を送付される場合は、輸送時の破損を防ぐため、ご購入時の箱・梱包材を使用してください。また、紛失等のトラブルを避けるため、宅配便または書留郵便小包でのご送付をお願いいたします。

● サービス窓口

電話番号　076-260-3663
受付時間　9:30～12:00　13:00～17:00
月～金曜日（祝祭日を除く）

※申し込まれた修理品の納期をお知りになりたい場合は、こちらまでお問い合わせください。